

# 奈良県感染症発生動向調査事業報告

# 平成28年 内科・小児科感染症の概要

## 1. 平成28年の流行状況

<全国>今年は大流行といえるような疾病はなかったが、昨年に比べて報告の多かったのはインフルエンザ、感染性胃腸炎、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎であった。昨年に大流行した手足口病は著しく減少し、昨年定点当たり121.33であった報告が今年には21.88と著明に減少した。また、伝染性紅斑も31.31の報告が今年には16.30と少なかった。

<奈良県>今年流行した疾病は流行性耳下腺炎であった。流行性耳下腺炎は過去20年間では平成10年、13年、14年に流行が見られたが、今年には定点当たり76.02と最も多い報告数であった。また、昨年より多かった疾病はRSウイルス感染症と手足口病を除いてすべての疾病であった。昨年は全国平均を上回っていたのがRSウイルス感染症と手足口病であったことを見れば全く逆の現象が見られた。

## 2. 奈良県の近隣府県（三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県）の状況

奈良県の平野地区は交通が大変便利であり人の移動が激しい一方感染症の流行も影響を受けやすいと考えられる。今年奈良県で全国平均より多かった疾病を近隣府県から見てみると、RSウイルス感染症は大阪府が42.70と流行していたのに次いで奈良県の38.97と多かった。咽頭結膜熱は大阪府26.12、三重県が25.16と多く、次いで奈良県の22.82であった。伝染性紅斑は三重県32.47と和歌山県26.48に次いで奈良県が25.06であった。突発性発疹は奈良県が26.62と他府県に比べると一番多く、流行性耳下腺炎も奈良県76.00から特に大阪府72.48と和歌山県62.61に移動していったように見受けられた。

## 3. 地区別・疾病別報告数の定点当たりでの検討

地区別で報告数の多い疾病を見てみると、奈良市保健所は水痘、伝染性紅斑、突発性発疹、百日咳が、中和保健所東部地区では流行性耳下腺炎が中和保健所西部地区ではインフルエンザ、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナが他の保健所より多発していた。奈良県の総平均より多い報告数を保健所別で見ると、奈良市保健所では前述の疾病以外に手足口病、流行性耳下腺炎が、郡山保健所では咽頭結膜熱と伝染性紅斑が、中和保健所東部地区では感染性胃腸炎、突発性発疹、ヘルパンギーナが、中和保健所西部地区では水痘、突発性発疹がそれぞれ奈良県の総計定点当たりを上回っていた。内吉野保健所と吉野保健所は特に多発した疾病はなかった。

## 4. 年齢別報告数（10歳以上は1歳平均）と月別の発生状況

インフルエンザは6歳から14歳の学童期が1歳平均15.18と最も多発していた。インフルエンザの全体での最多は2月で7477件の報告があり、次いで3月の5880件であった。RSウイルス感染症は0歳の乳児期が12.94と多発し、月別では9月から12

月にかけて多かった。そのほか乳児期で多いのは突発性発疹と百日咳であった。突発性発疹は定点当たり 9.97 であり、百日咳は 0.09 であった。その他の疾病はすべて 1 歳から 5 歳までの幼児期が最も多く、咽頭結膜熱は 1 歳平均で定点当たり 3.48 であり、5~6 月に多発していた。A 群溶連菌咽頭炎は 8.66 で 6 月をピークにして 1 月から 7 月まで多発していた。感染性胃腸炎は 37.84 で 11 月から 12 月にわたり流行していた。水痘は 1.43 で 12 月に最も報告が多かった。手足口病は 1.94 と少なく、10 月から 12 月にかけては多かった。伝染性紅斑は 2.98 で 1 月と 6~7 月に多く見られた。ヘルパンギーナは 5.39 で 6 月から 9 月にかけて集中して多発していた。流行性耳下腺炎は今年も多く 7.26 で 9 月が最も多い報告であったが 1 年間を通して毎月発生していた。

足立 豊彦 記

インフルエンザ定点分  
(小児科定点・内科定点)

# 1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

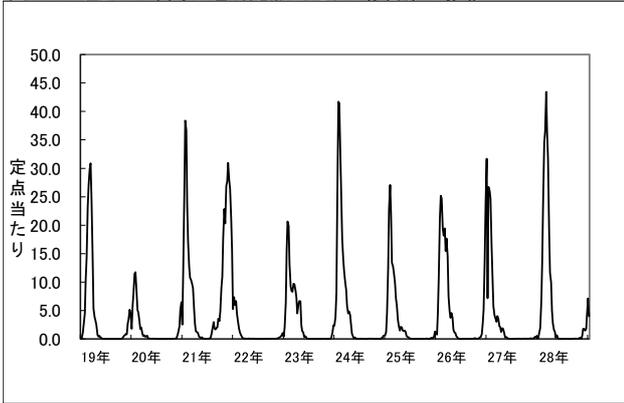


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

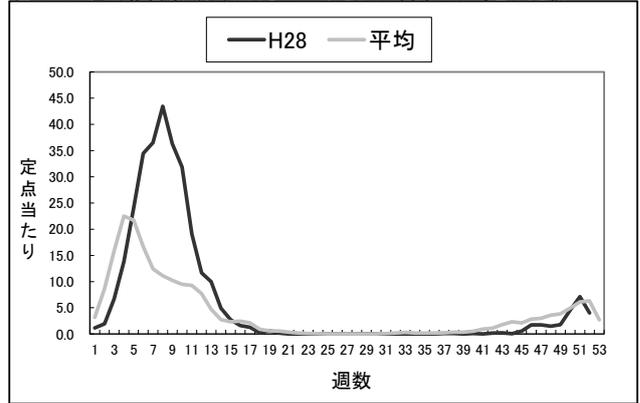


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

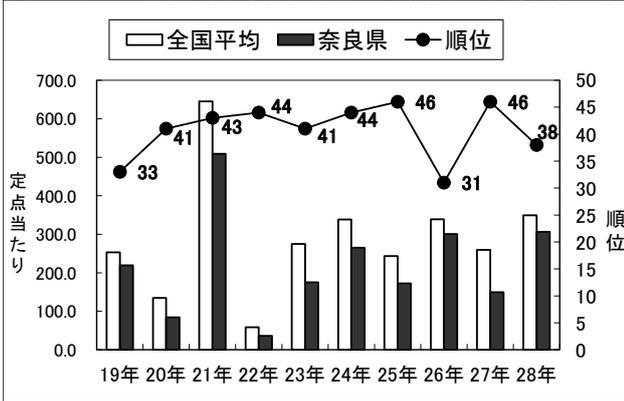


図 1-6 年齢別報告数(実数)

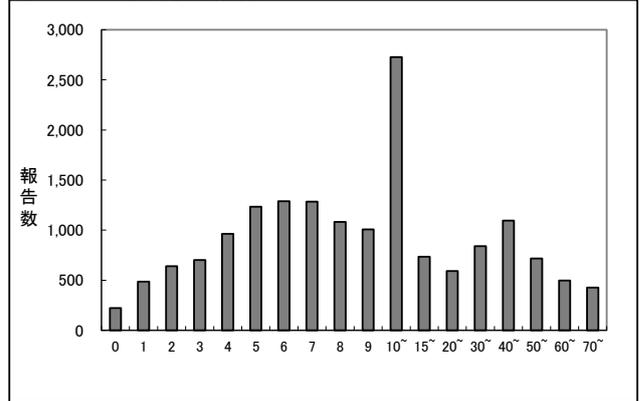


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

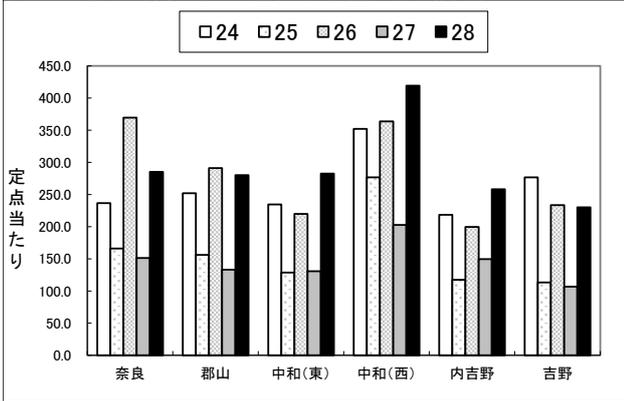
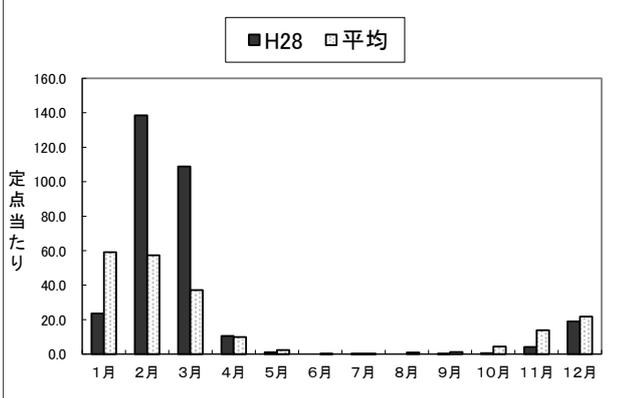


図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## コメント

奈良県の実報告数は16,542例、定点当たりの報告数は306.33(全国平均;354.69)であり、例年通り全国平均よりは少ないものの、昨年より倍増した。

保健所別の定点あたりの報告数は、最多が中和(西)保健所の419.05、次いで奈良市保健所の285.28であった。

平成28年のインフルエンザは、流行の始まりが例年より遅く、1月に入り流行が認められた。月別の定点当たりの報告数では、2月が138.46と最多で、3月108.89、4月10.15と終息した。

年齢別報告数では、6歳が1289例と最多で、5～7歳の児童に多く分布した。

1月から2月にかけてA型2種、B型2種類と4種類のウイルスが同時期に混在して検出されたが、その中でもAH1pdm09が多くを占め、薬剤耐性試験については38例のAH1pdm09を対象に実施し、1例の耐性株(H275Y変異株)が確認された。

また、B型については山形系統とビクトリア系統が2:1の割合で、過去5シーズン続けて山形系統が多く検出された。

(山本 圭一 記)

## 小兒科定点分

## 2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

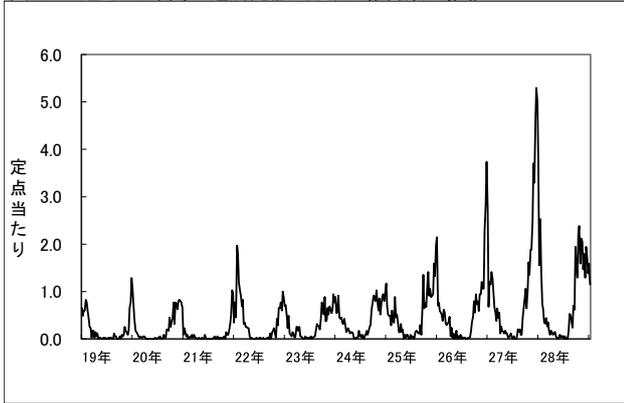


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

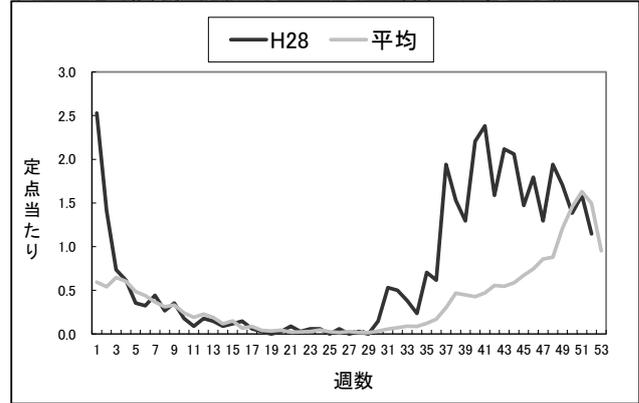


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

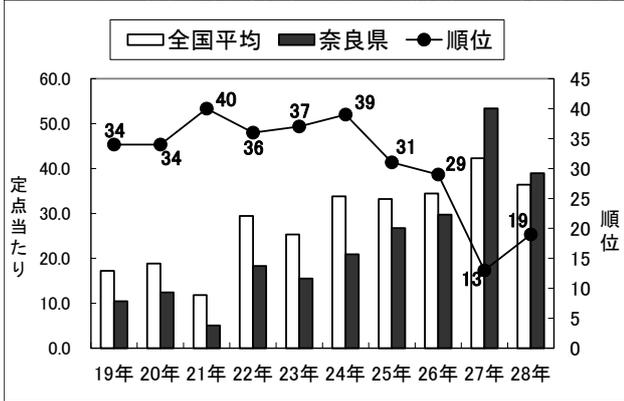


図 2-6 年齢別報告数(実数)

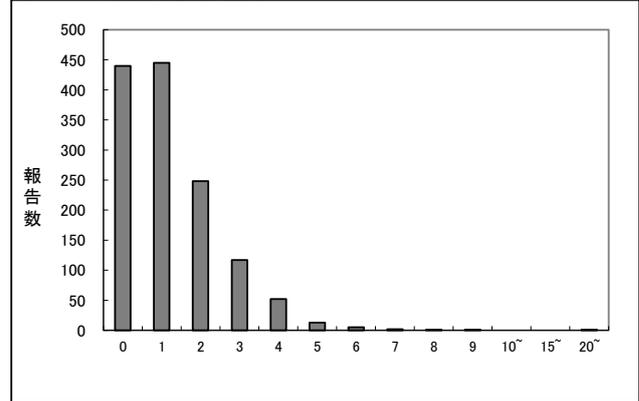


図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

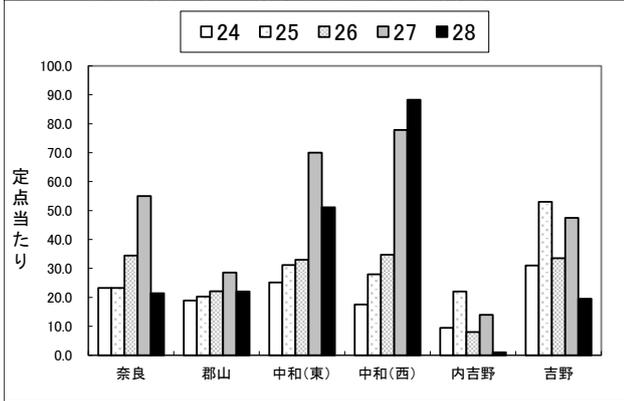
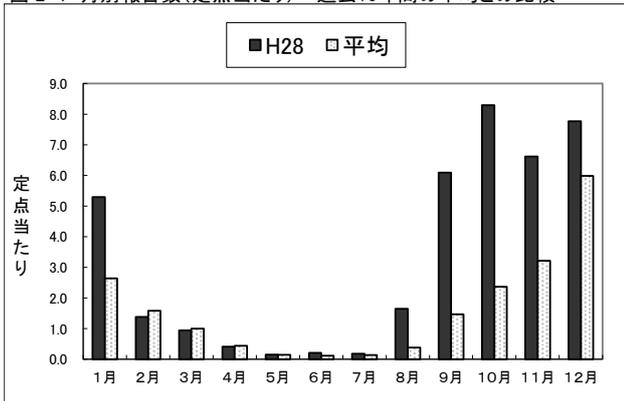


図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

奈良県の実報告数は1,325例、定点あたりの報告数は38.97(全国平均:33.17)であり、過去10年間で2番目に多く、平成23年より右肩上がり増加していたのが減少に転じた。

保健所別の定点あたりの報告数は、最多が中和(西)保健所の88.29、次いで中和(東)保健所の51.14であった。

月別報告数では、例年8月より12月にかけて徐々に報告数が増加するのだが、平成28年は8月に増え始め、9月に激増し12月まで同じ水準で推移した。

年齢別報告数では、0～5歳児が全体の99.2%を占め、その中でも0歳と1歳児が特に多かった。

(山本 圭一 記)

### 3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

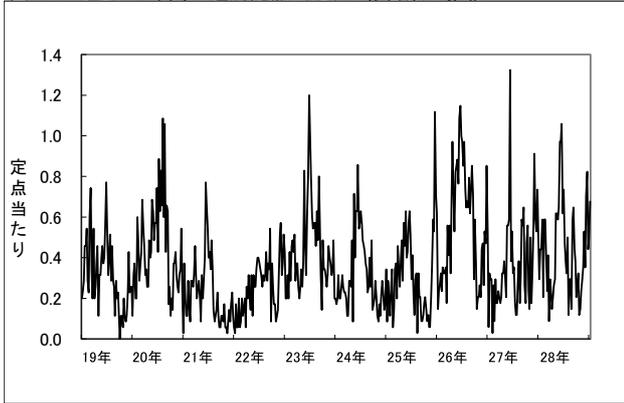


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

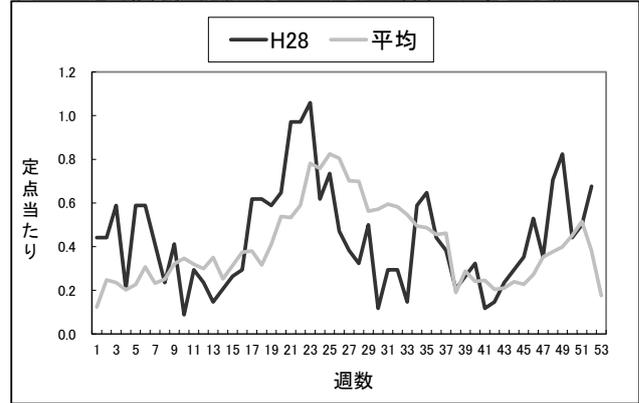


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

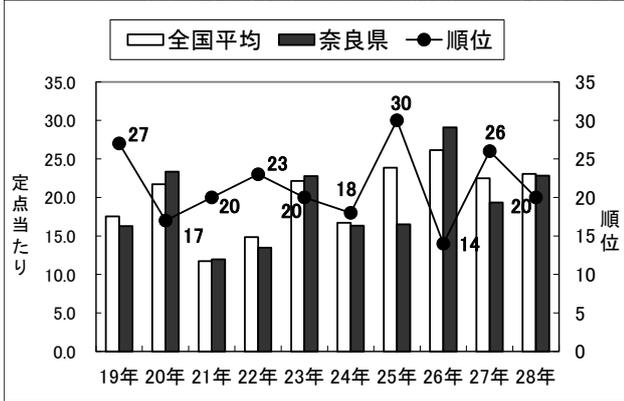


図 3-6 年齢別報告数(実数)

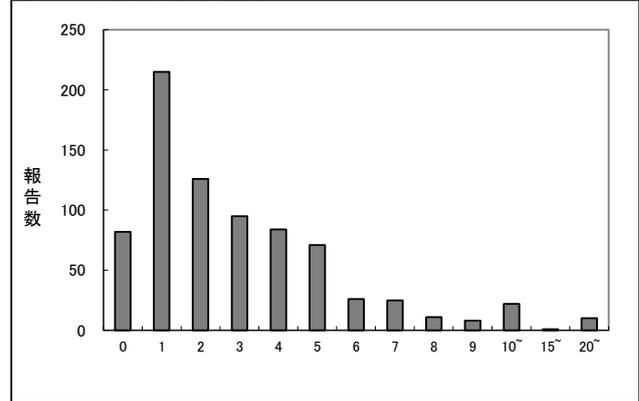
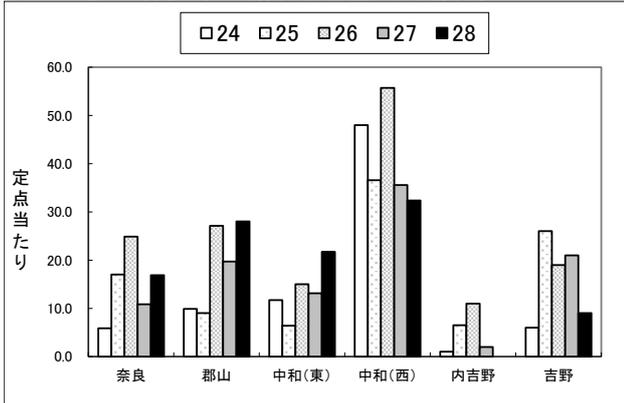


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

奈良県の全報告数は776例、定点あたりの報告数は22.82(全国平均: 21.39)で例年全国平均と同程度であり、過去10年間では定点あたり10~30の間を推移している。

保健所別の定点あたりの報告数では、最多が中和(西)保健所の32.36、次いで郡山保健所の28.04であった。

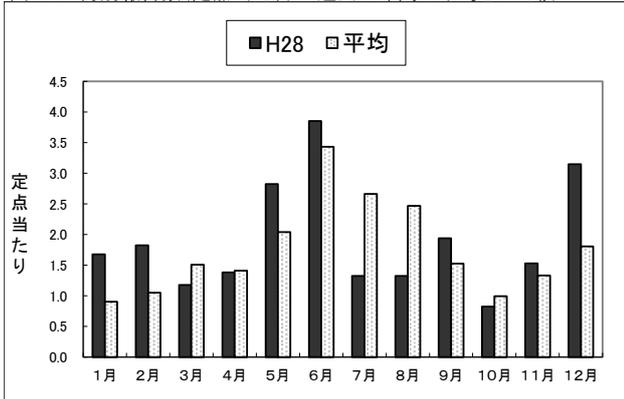
月別の定点あたりの報告数では、例年5月から8月にかけての報告数が多いが、平成28年は5月から6月に多く、7月から8月には少なかった。

年齢別報告数では、0~5歳児が全体の86.7%を占め、その中でも1歳児が特に多かった。

検体の搬入は1例で、アデノウイルス2型が検出された。

(山本 圭一 記)

図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



#### 4.A 群溶連菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

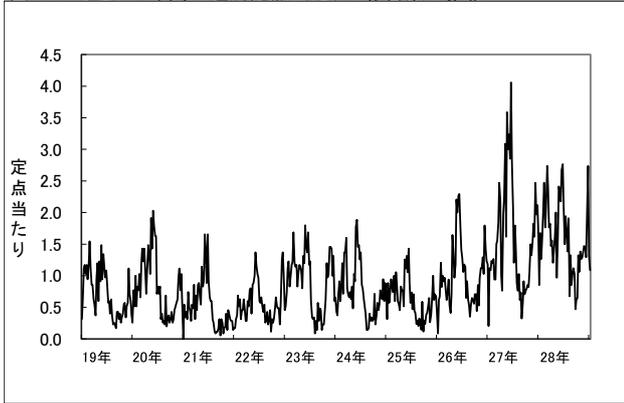


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

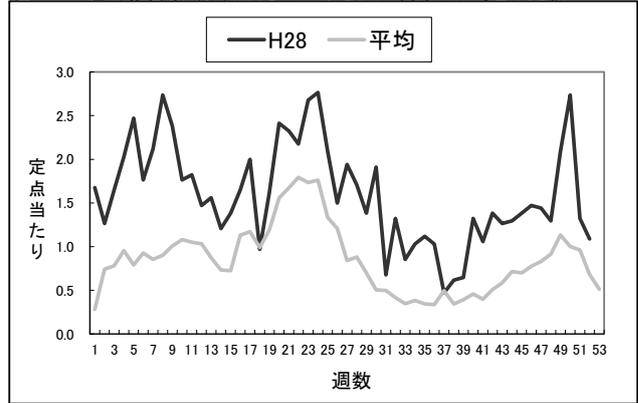


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

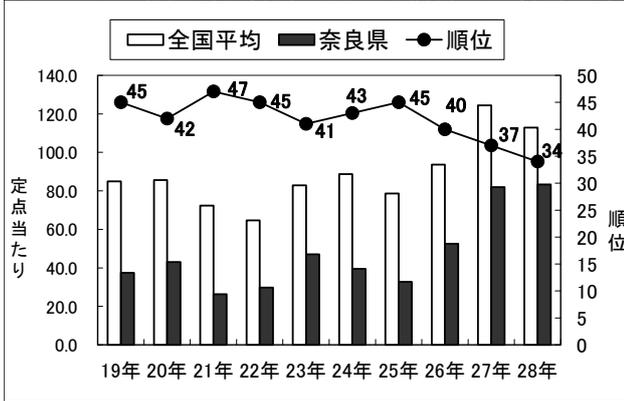


図 4-6 年齢別報告数(実数)

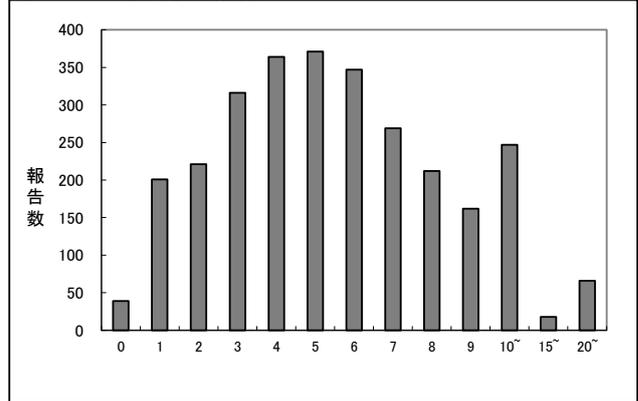


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

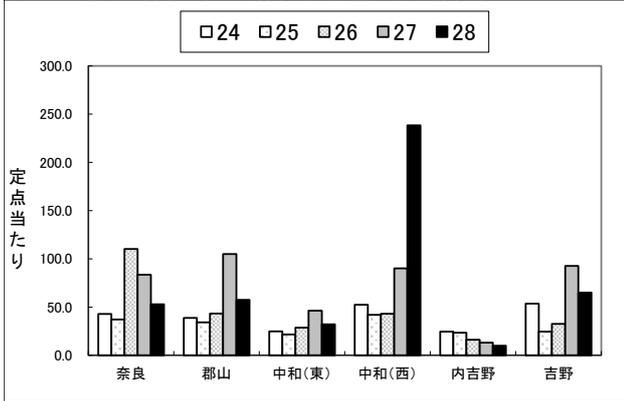
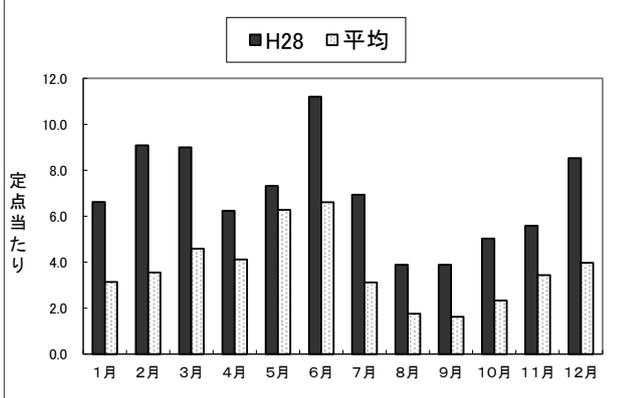


図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



#### コメント

平成28年における全報告数は2,833例、定点当たりの報告数は83.32(全国平均;112.89)で、昨年は急増したものの平成28年はほぼ横ばい状態で、全国平均より下回っていた。過去10年間の定点当たりの報告数で見ると、例年ほぼ30~40台で推移していたが、平成28年は昨年(81.94)を若干上回り、過去10年間で最高となった。都道府県別に定点当たりの報告数を見ても、奈良県は全国順位34位と、過去10年間で最も高くなった。

保健所別に定点当たりの報告数を見ると、例年は突出して報告数が多い保健所を認めなかったが、平成28年は、中和保健所(西)が238.38と突出し他保健所の4~6倍となっていた。次いで、吉野保健所;65.00と多く、郡山保健所、奈良市保健所が、順に57.48、52.84とほぼ同程度で、中和保健所(東);32.00と続き、内吉野保健所が10.00と例年通り最少だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数を見ると、5月(6.27→7.39)を除くすべての月において、軒並み例年のほぼ2倍の報告数に達していた。特に、2月(9.09)~3月(9.00)、6月(11.21)と12月(8.53)の報告数が多かった。週数で見ると、第4週~第9週、第20週~第25週、第49週以降の報告数は著しく増加し、2.00台を上回っていた。

年齢別での実報告数を見ると、4歳(364例)~5歳(371例)をピークにほぼ一峰性の分布が認められ、また、幼児期層から小学校低学年層に当たる1歳~9歳の年代で2,463例報告されており、全体の86.9%を占めていた。

(村井 孝行 記)

## 5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

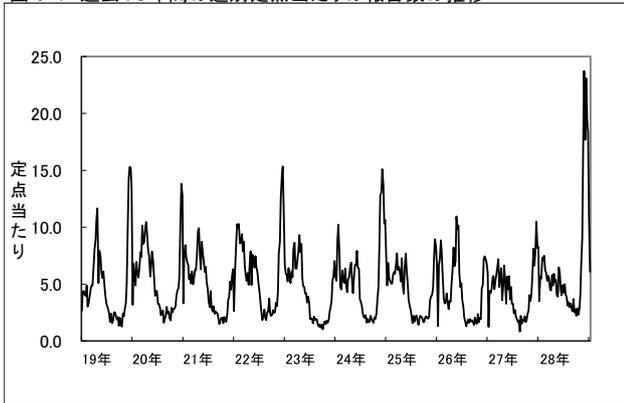


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

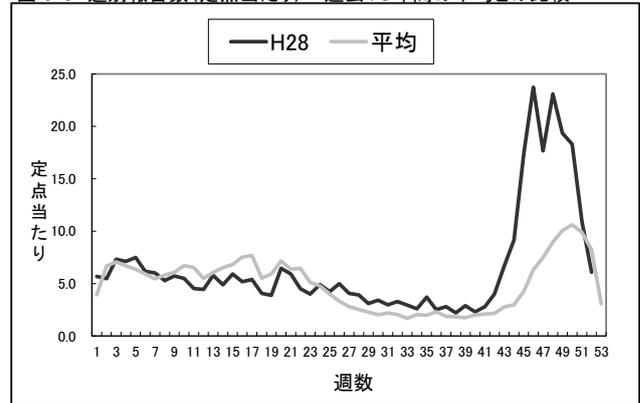


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

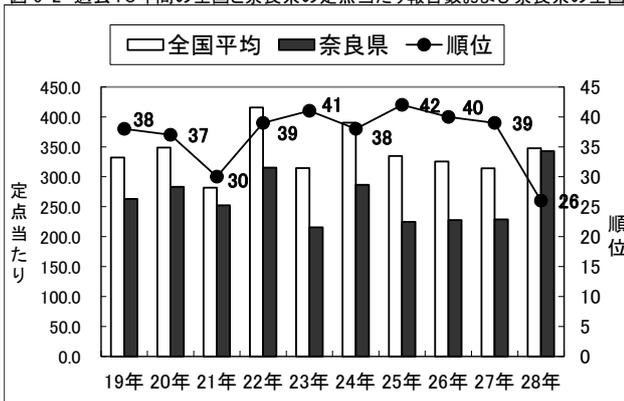


図 5-6 年齢別報告数(実数)

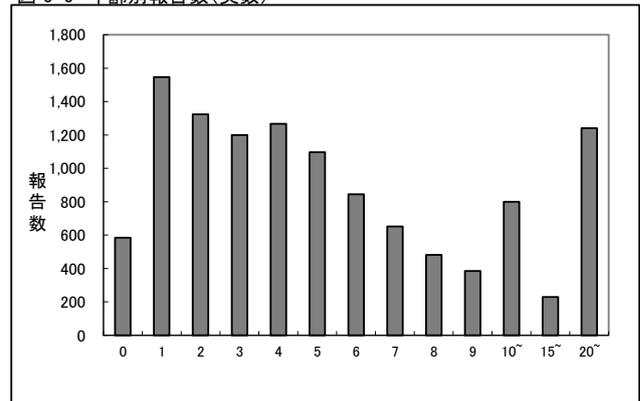


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

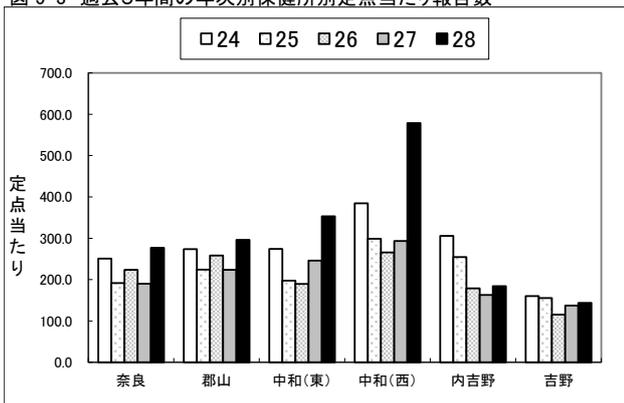
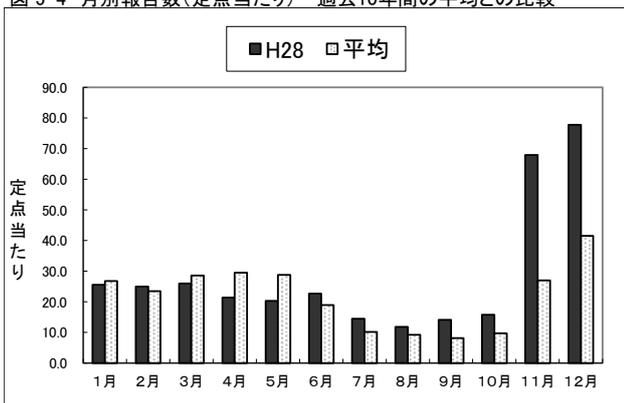


図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年における全報告数は11,653例、定点当たりの報告数は342.74(全国平均;347.66)だった。過去10年間の定点当たりの報告数で見ると、例年は200台をほぼ推移していたが(平成22年;315.34を除く)、平成28年は、平成22年;315.34を上回り、過去10年間で最高となった。都道府県別に定点当たりの報告数を見ても、奈良県は全国順位26位と、過去10年間で最も高くなった。

保健所別に定点当たりの報告数を見ると、平成28年は、中和保健所(西);578.50と突出し、次いで中和保健所(東);353.14と多く、2保健所がほぼ同数で郡山保健所;295.81、奈良市保健所;276.79と続き、内吉野保健所;184.00、吉野保健所;143.50だった。奈良県全体としてみても、中部>北部>南部と大きく三分された。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数を見ると、1月~10月にかけては、多少の増減はあるもののほぼ例年通りの報告数であったが、平成28年は、それ以降の11月と12月の報告数が例年のほぼ2倍近く報告されており、順に67.94、77.76であった。週数で見ると、第42週(4.00で例年の2倍)頃から増加の兆しが見られ、それ以降報告数が徐々に増加していき、第45週になると急増して報告数は17.38にも上り、例年の報告数のほぼ4倍にも達していた。

年齢別に報告数(実数)を見ると、1歳(1,547例)、2歳(1,324例)、3歳(1,199例)、4歳(1,267例)、5歳(1,096例)と、やはり乳幼児期層で全体の55.2%(6,433例)を占めていた。以降の年代層では、ほぼ右肩下がりに減少していた。また、20歳以上の成人層において1,241例(10.7%)もが報告されており、その一因として家庭内感染があげられるのではないかと考えられた。

感染性胃腸炎として診断され病原体定点から提出された検体の検出ウイルスは、19種類だった。ノロウイルスGIIが最も多く検出され、平成28年は夏季における検出もあり、年間を通して認められた。また、A群ロタウイルスは1月~6月まで検出が続き、例年に比べ検出のピークが1月と早かった。年齢別に同ウイルス検出者数を見ると、0歳~3歳までの検出者数は例年とほぼ同数であったが、4歳以上における検出者数が急増していた。

(村井 孝行 記)

## 6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

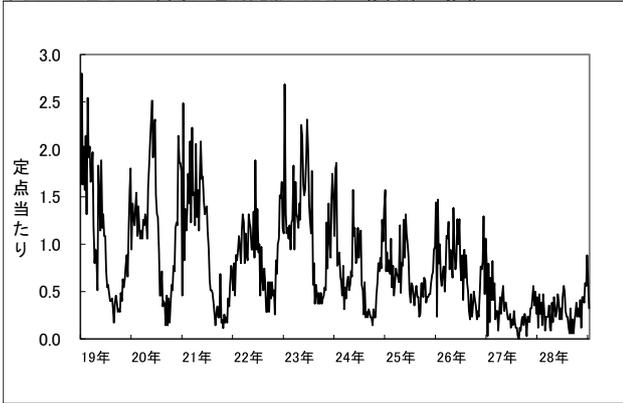


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

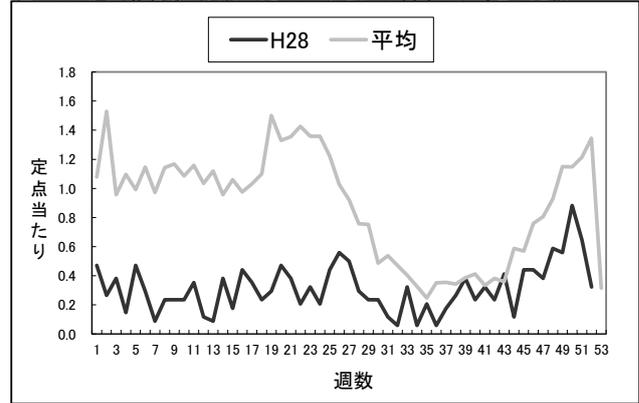


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

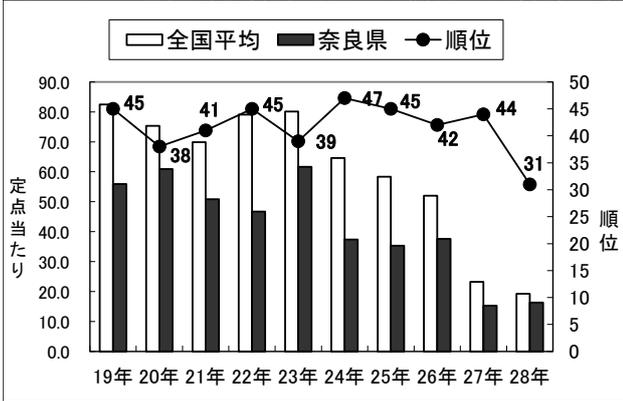


図 6-6 年齢別報告数(実数)

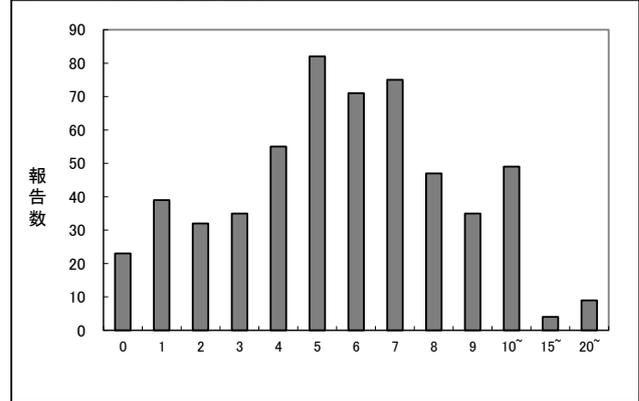


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

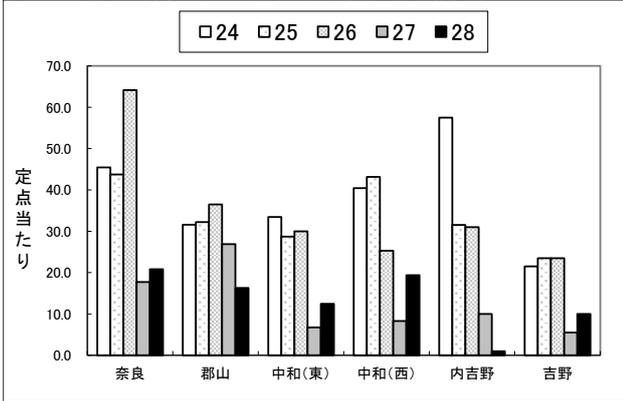
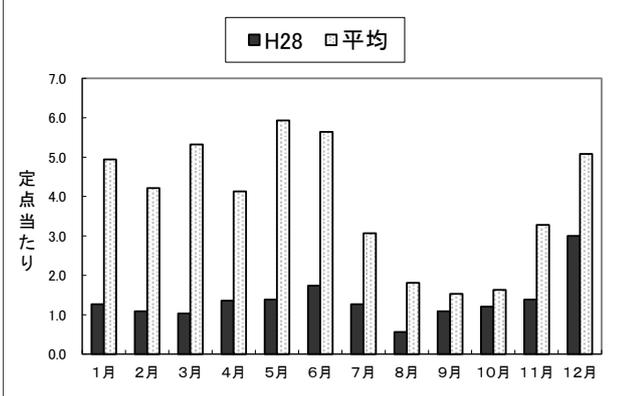


図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年における全報告数は556例、定点当たりの報告数は16.35(全国平均;19.26)だった。過去10年間の定点当たりの報告数で見ると、全国的に平成19年以降は右肩下がりになだらかに減少し、さらに平成27年からは急減しており、奈良県においてもほぼ同様の傾向であった。道府県別に過去10年間の定点当たりの報告数を見ると、例年全国順位は40位台を推移して低かったが、平成28年は31位と過去10年間で最高だった。

保健所別に定点当たりの報告数を見ると、奈良市保健所が、20.83と最多で、中和保健所(西);19.38とほぼ同数で、次いで、郡山保健所;16.27、中和保健所(東);12.43、吉野保健所;10.00と続き、内吉野保健所が1.00と最少だった。また、郡山保健所と内吉野保健所の2保健所が昨年より減少していた。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数を見ると、9月(1.09)と10月(1.21)の報告数は例年よりやや少なかったが、この2か月を除くすべての月に於いて、例年の報告数の1/4~1/2程度となっていた。週数で見ると、特に、第1週~第25週にかけての減少が著しかった。

年齢別での実数報告数を見ると1歳(39例)と5歳(82例)をピークにした二峰性にほぼ近い分布が認められ、4歳~7歳における年代で283例の報告があり、全体の50.9%を占めていた。

(村井 孝行 記)

## 7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

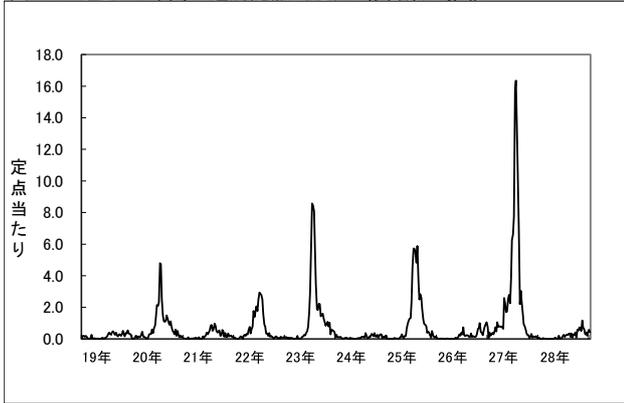


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

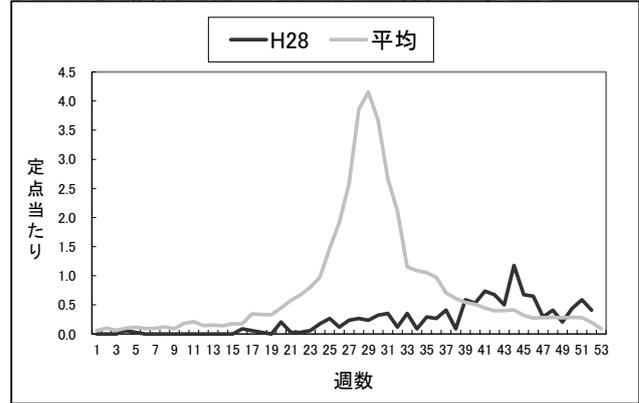


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

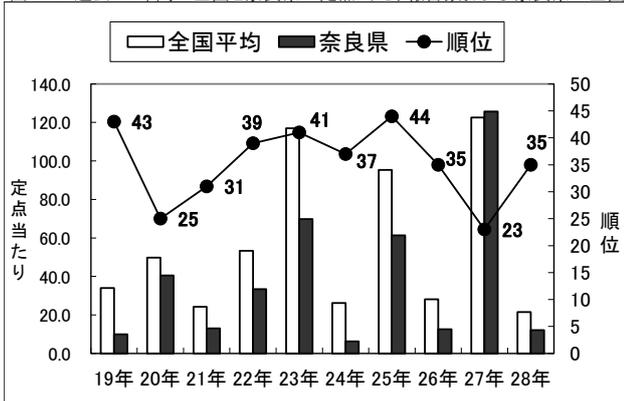


図 7-6 年齢別報告数(実数)

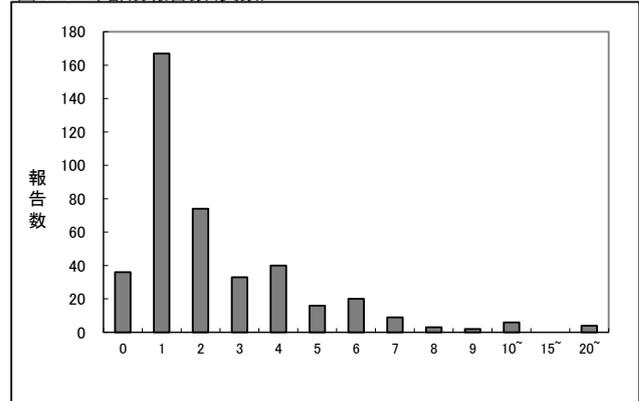


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

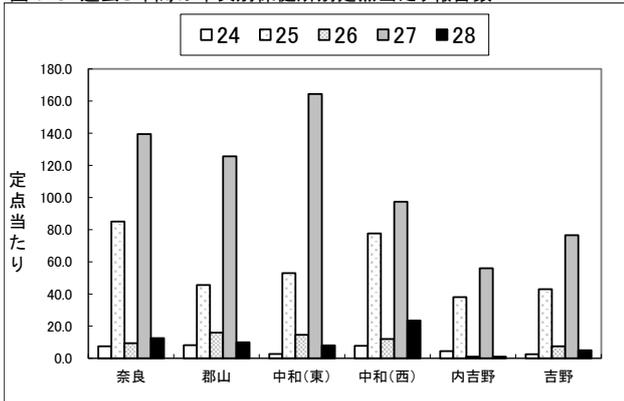
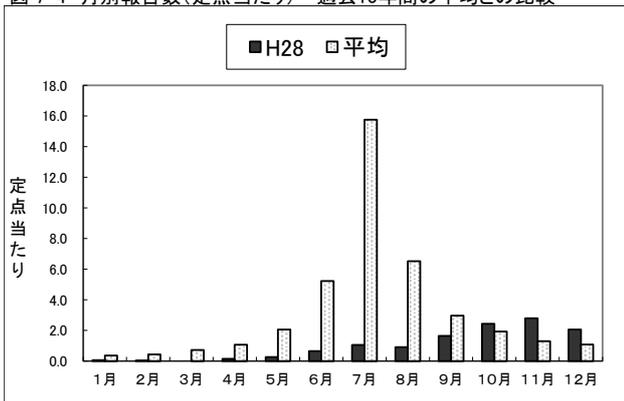


図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年における全報告数は410例、定点当たりの報告数は12.06(全国平均21.92)で、流行年に当たった27年(全報告数4,274)の1割にも満たない。全国的にみても28年は前年の1割程度で、都道府県別の定点当たり報告数では奈良県は35位であった。

保健所別の定点当たり報告数では、例年と同様、突出して報告数が多い保健所は認めなかったが、中和(西)保健所(23.45)のみ全国平均を上回った。

月別・週別定点当たりの過去10年間の平均との比較では、例年7月をピークに6月～10月に集中する一峰性分布をなしているが、平成28年は9月頃から漸増し、11月がピークとなっている。週別では34週頃から漸増、44週がピークとなっている。

年齢別の実報告数をみると0歳～3歳で全体の80%弱、6歳までの小学校就学前で全体の95%と、年齢分布は例年と変わりがなかった。

平成28年は検出されたウイルスも8株で少なく、原因ウイルスはコクサッキーA群16型が3株、それ以外はライノウイルスであった。

(水野 文子 記)

## 8. 伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

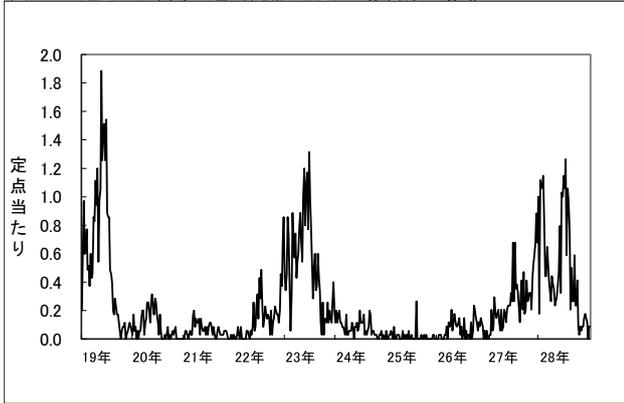


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

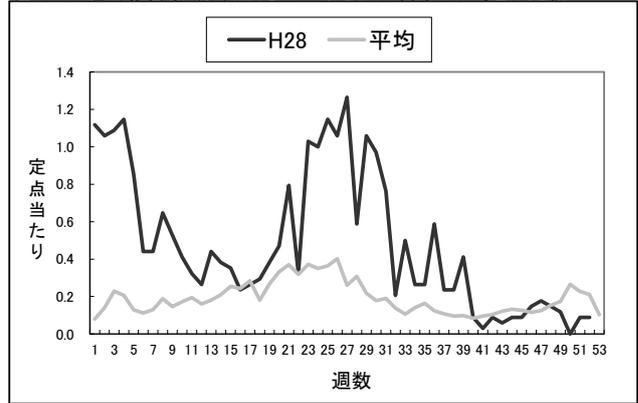


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

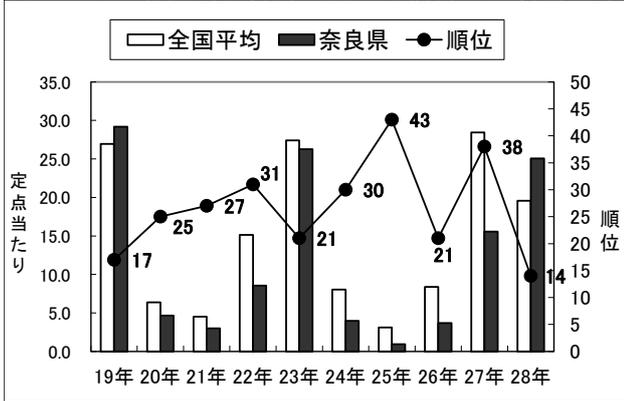


図 8-6 年齢別報告数(実数)

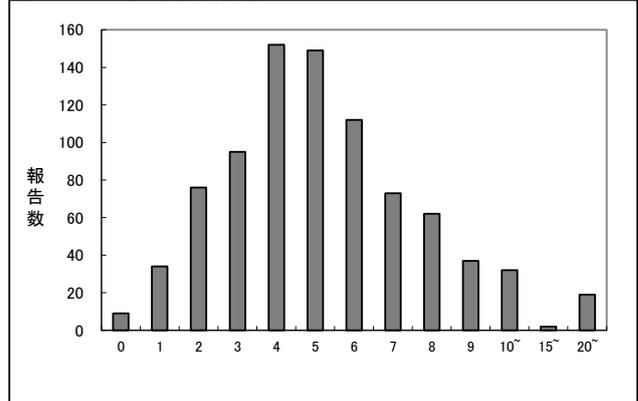


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

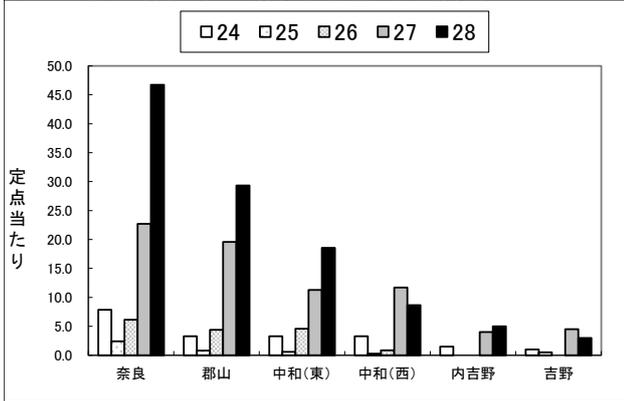
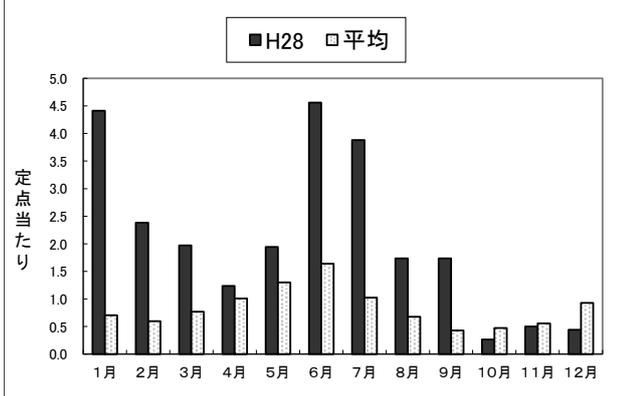


図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年における全報告数は852例、定点当たりの報告数は25.06(全国平均16.3)だった。過去10年間の定点当たりの報告数を見ると3～4年間隔の流行周期を認め、平成27年は流行期に当たっていたが、28年はさらに増加、全国平均も上回り、都道府県別定点当たりでは、14位(27年38位)であった。

保健所別定点当たり報告数では、例年通り奈良市保健所が最多(46.75)で27年のほぼ倍、以下郡山(29.34)、中和(東)(18.57)、中和(西)(8.64)と続いた。

月別・週別に定点当たりの過去10年の平均報告数と比べると、28年1月(4.41)は6月(4.56)とほぼ同数で、27年12月のピークの続きと考えられたが、28年は例年通り6月をピークに10月以降は激減していた(0.5≧)。

年齢別の実報告数をみると、前年に引き続き1歳～10歳までの年代に幅広く一峰性の分布が認められ、6歳までの就学前の年代で全体の70%強を占めた。成人の報告数も例年通り一定数みられる。

(水野 文子 記)

## 9.突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

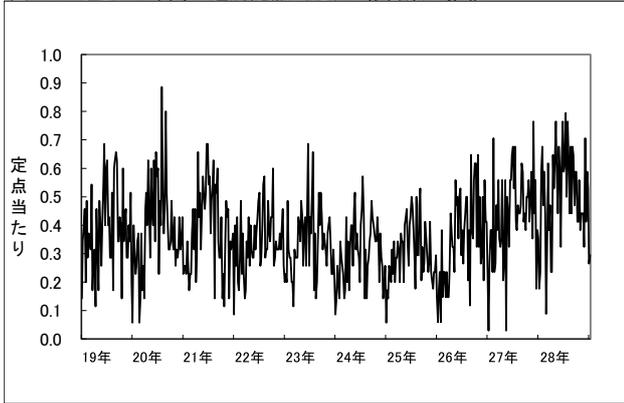


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

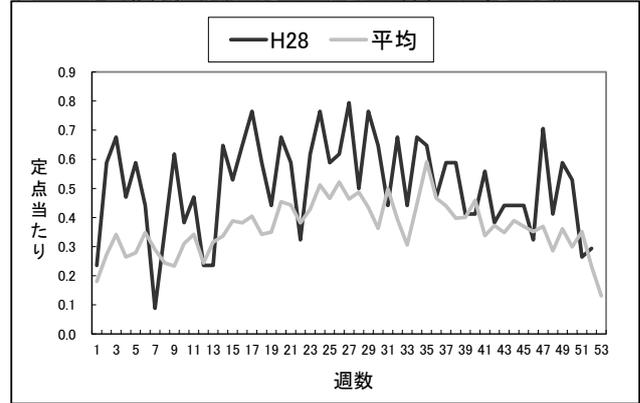


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

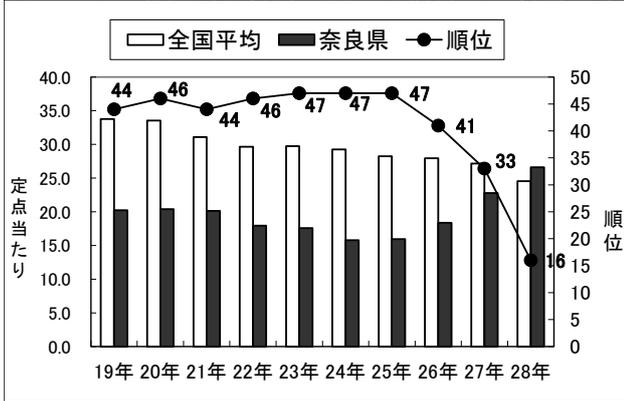


図 9-6 年齢別報告数(実数)

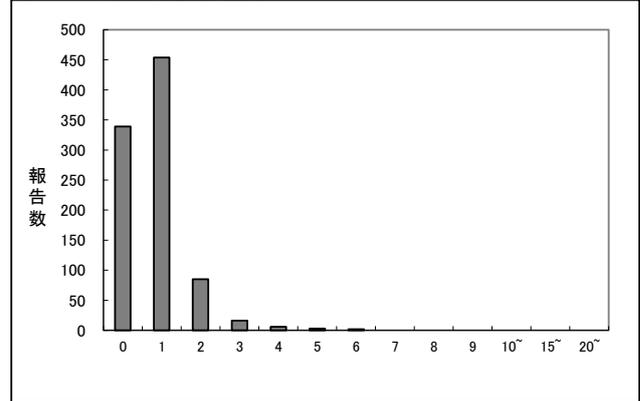
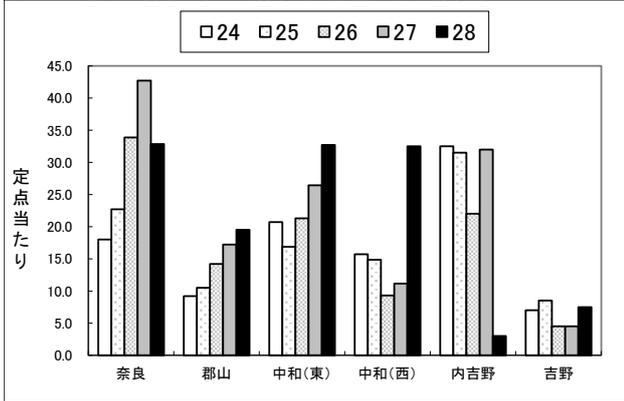


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

平成28年における全報告数は905例、定点当たりの報告数は26.62(全国平均24.17)であった。過去10年間の定点当たりの報告数をみると、全国平均は減少傾向だが、奈良県は平成25年以降増加傾向にあり、28年は全国平均を上回り、都道府県別でも前年の33位から16位となった。

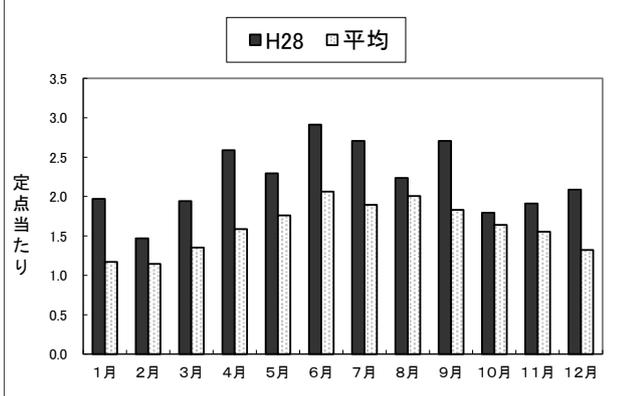
保健所別定点当たりの報告数では、奈良市保健所、郡山、中和(東)は例年通り多いが、中和(西)は27年(11.14)の約3倍に増加(32.5)、内吉野(3.0)は前年(32.0)の1割にとどまった。

月別・週別に定点当たりの過去10年の平均報告数をみると、夏期から初秋にかけて多い傾向にあるが、28年は4月から9月にかけて多めであった。

年齢別での実数報告数は、例年と同様0歳(339例)と1歳(454例)で全体の90%弱を占めており、2歳(85例)を加えると97%を占める。

(水野 文子記)

図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 10.百日咳

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

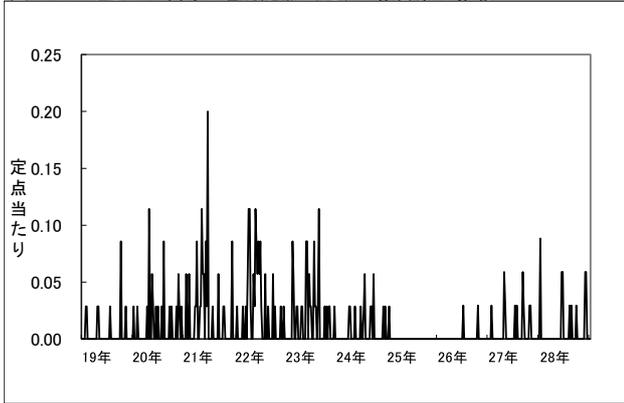


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

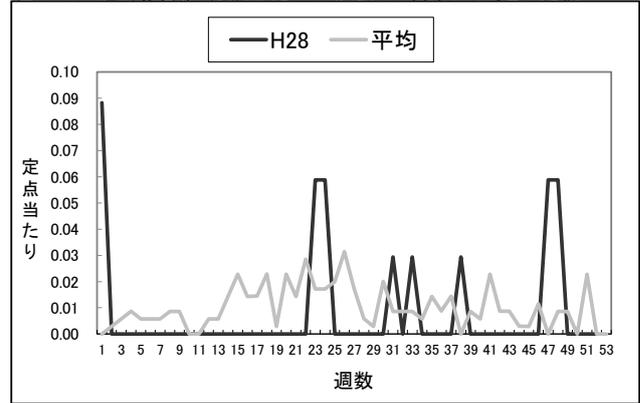


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

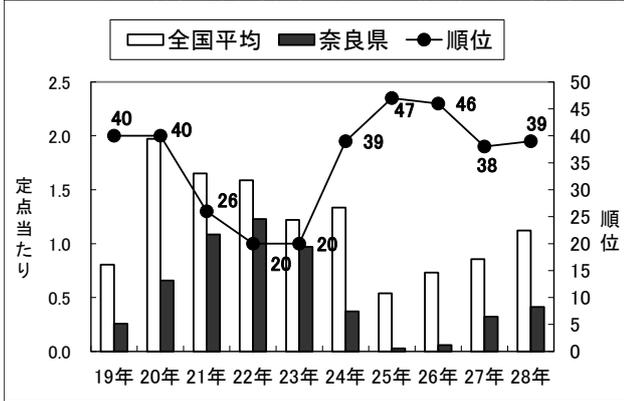


図 10-6 年齢別報告数(実数)

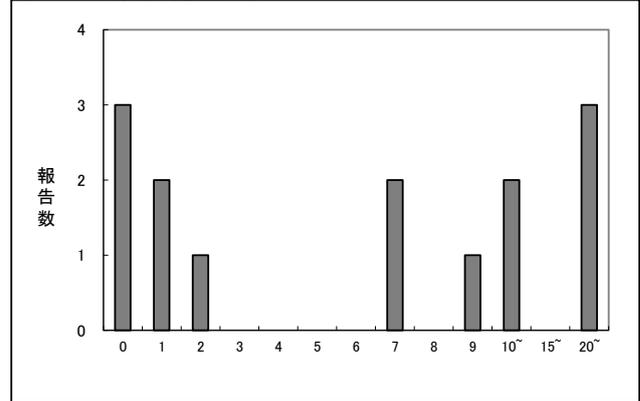


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

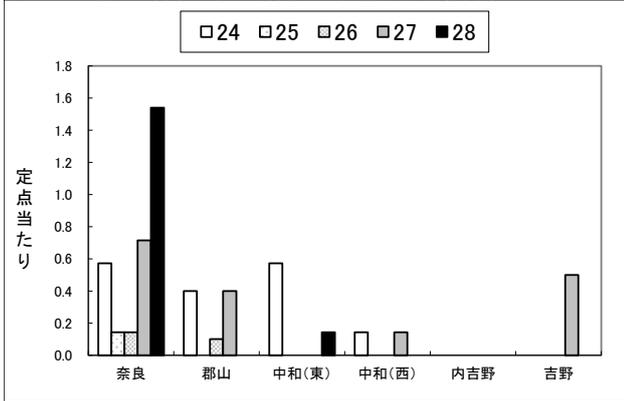
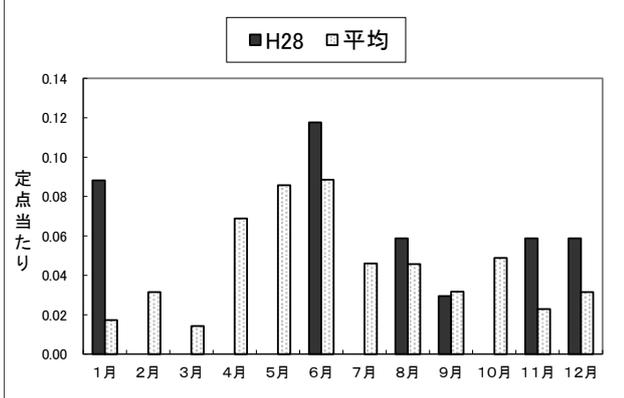


図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

H28の奈良県の報告数は14人(定点当たり0.41)であった。

【図10-1】最多の週はH21の第26週(0.20)(7人)であった。直近の過去5年間で最多の週はH28の第1週(0.09)(3人)であった。

【図10-2】全国、奈良県ともに最少であったH25から3年連続の増加であった。奈良県の順位はH27(38位)からH28(39位)の推移であった。

【図10-3】H28は、①奈良(1.54)、②中和(東)(0.14)で、他はすべて0.00であった。また、同一保健所での5年間の推移では、奈良がH28に最多となり、内吉野は5年連続0.00であった。

【図10-4】最多の月は、10年平均が6月(0.09)で、H28も6月(0.12)(4人)であった。

【図10-5】最多の週は、10年平均が第23、26週(0.03)で、H28が第1週(0.09)(3人)であった。

【図10-6】最多は0歳(3人)であった。10歳以上の年齢階級別では10-14歳(2人)、20-29歳(3人)であった。

(柳生 善彦 記)

## 11.ヘルパンギーナ

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

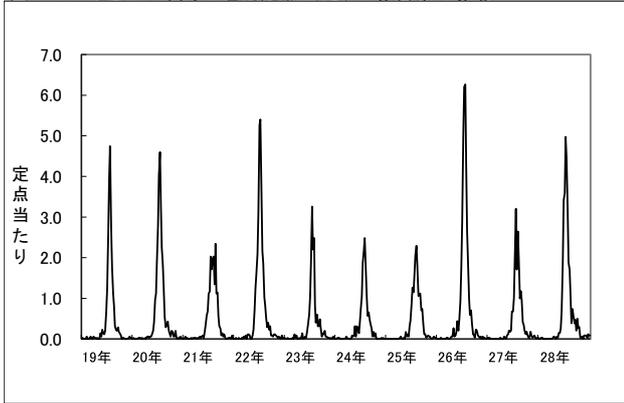


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

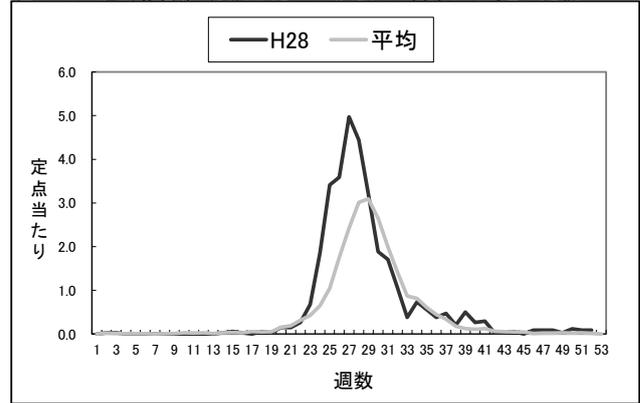


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

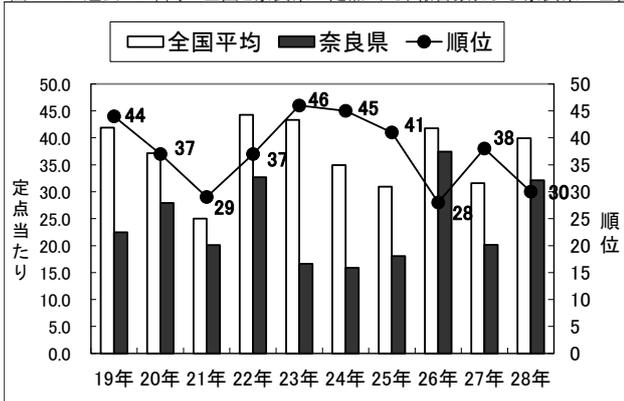


図 11-6 年齢別報告数(実数)

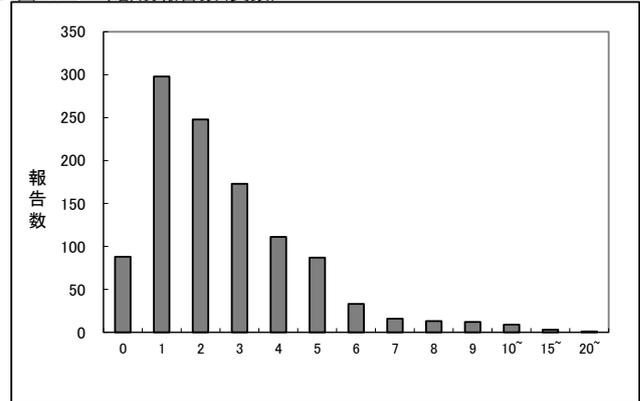


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

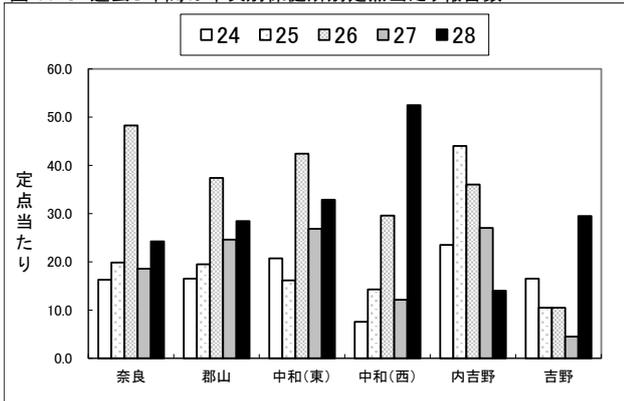
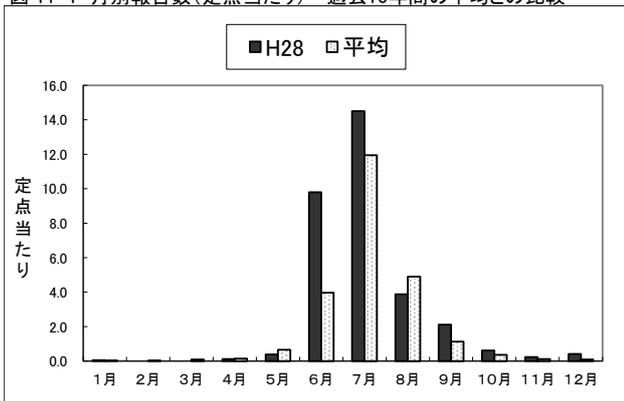


図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

H28の奈良県の報告数は1,092人(定点当たり32.12)であった。

【図11-1】各年の最多の週は、H26の第29週(6.24)(213人)、次いでH22の第27週(5.40)(189人)であった。

【図11-2】H27の全国(31.61)、奈良県(20.15)(38位)から、H28の全国(39.93)、奈良県(32.12)(30位)への推移であった。

【図11-3】H28は①中和(西)(52.48)、②中和(東)(32.86)、③吉野(29.50)、④郡山(28.42)、⑤奈良(24.25)、⑥内吉野(14.00)であった。また、同一保健所での推移では内吉野以外はすべてH27に比べH28が増加で、特に中和(西)と吉野は5年間での最多であった。

【図11-4】最多の月は、10年平均が7月(11.95)で、H28も7月(14.50)(493人)であった。

【図11-5】最多の週は、10年平均が第29週(3.09)で、H28が第27週(4.97)(169人)であった。

【図11-6】0歳が88人。1歳が298人で最多で、以下9歳(12人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であった。また、年齢階級別報告数は10-14歳(9人)、15-19歳(3人)、20-29歳(1人)であった。

なお、ウイルスの検出状況は、2016(H28)は主に南部の医療機関から検体の提出があり、原因ウイルスとしてコクサッキーA群4型3株および10型を1株検出した。

(柳生 善彦 記)

## 12.流行性耳下腺炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

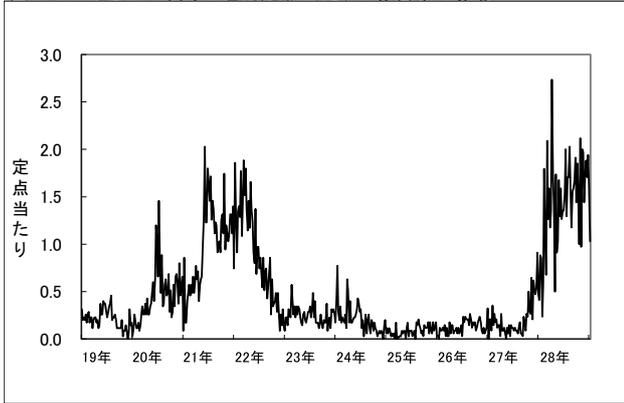


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

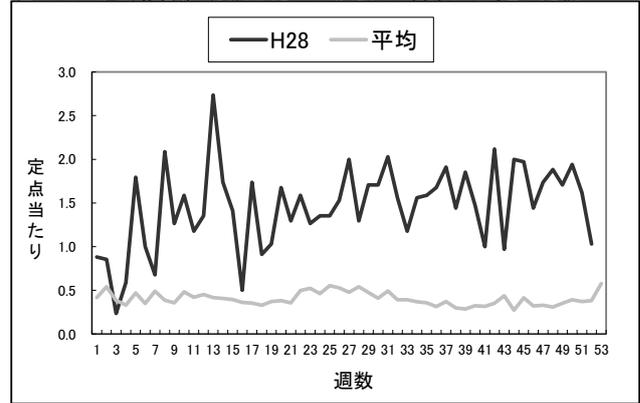


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

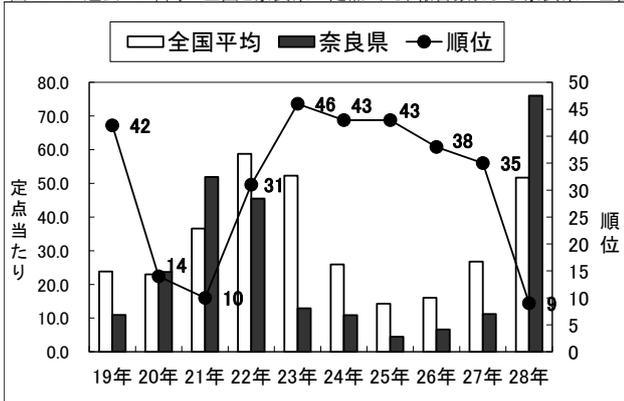


図 12-6 年齢別報告数(実数)

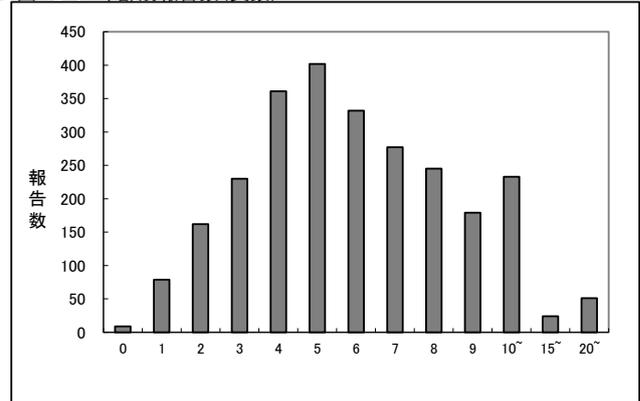


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

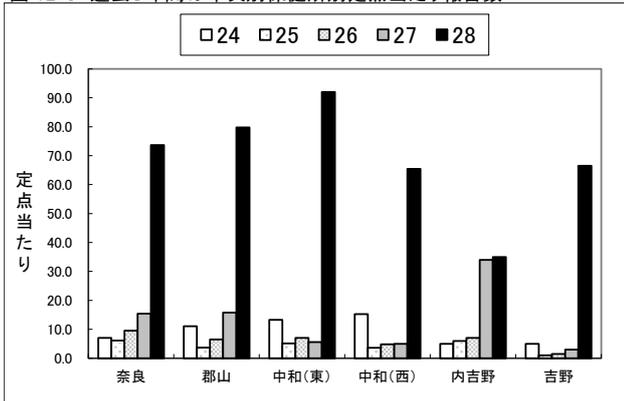
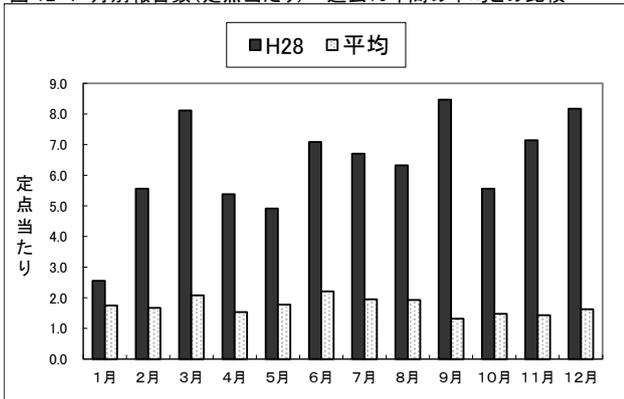


図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

H28の奈良県の報告数は2,584人(定点当たり76.00)であった。

【図12-1】最多の週は、H28の第13週(2.74)(93人)であった。

【図12-2】奈良県はH28(76.00)(9位)と最多及び最高であった。

【図12-3】H28は①中和(東)(92.00)、②郡山(79.79)、③奈良(73.68)、④吉野(66.50)、⑤中和(西)(65.40)、⑥内吉野(35.00)であった。また、同一保健所での推移では、全てH28が5年間で最多となった。

【図12-4】最多の月は、10年平均が6月(2.21)で、H28が9月(8.47)(288人)であった。

【図12-5】10年平均は最多が第53週(0.58)、最少が第44週(0.27)であった。H28は最多が第13週(2.74)(93人)、最少が第3週(0.24)(8人)であった。

【図12-6】0歳(9人)から最多の5歳(402人)までは漸増、5歳から9歳(179人)までは漸減であった。また、年齢階級別報告数は10-14歳(233人)、15-19歳(24人)、20-29歳(51人)であった。

なお、ウイルスの検出状況は、流行性耳下腺炎を疑う検体は7例搬入され、4例からムンプスウイルスを検出した。いずれも髄液からのウイルス検出であった。また、流行に伴い、無菌性髄膜炎患者の髄液からのムンプスウイルスの検出が8例あった。(柳生 善彦 記)

## 眼科定点分

### 13.急性出血性結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

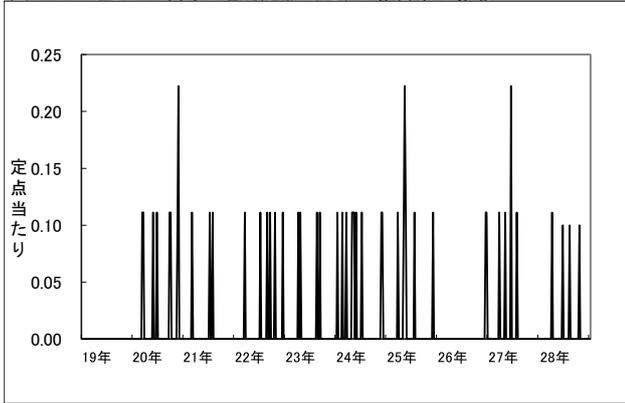


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

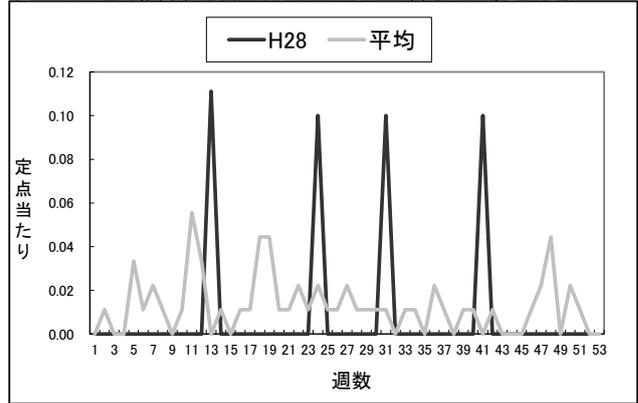


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

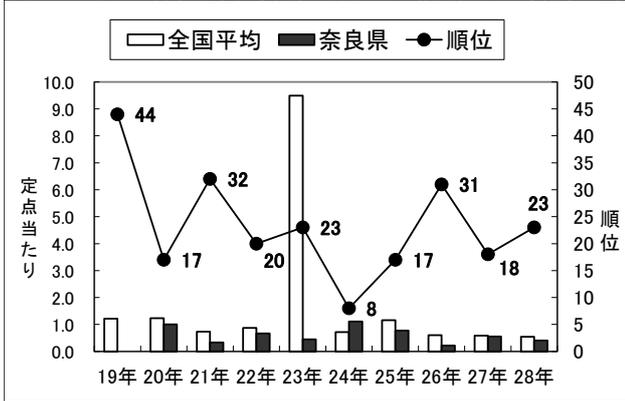


図 13-6 年齢別報告数(実数)

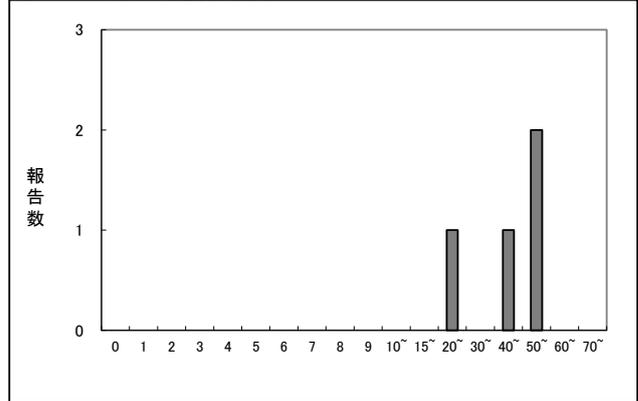


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

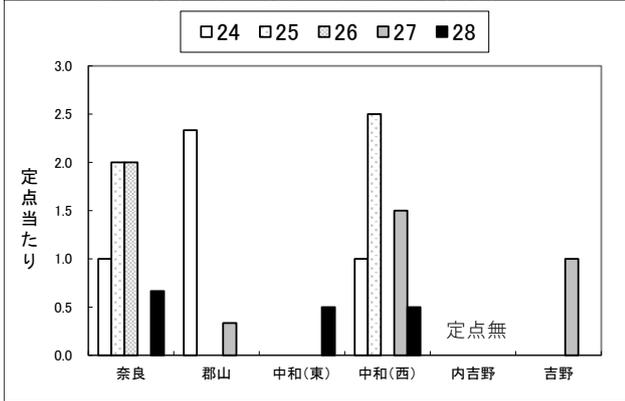
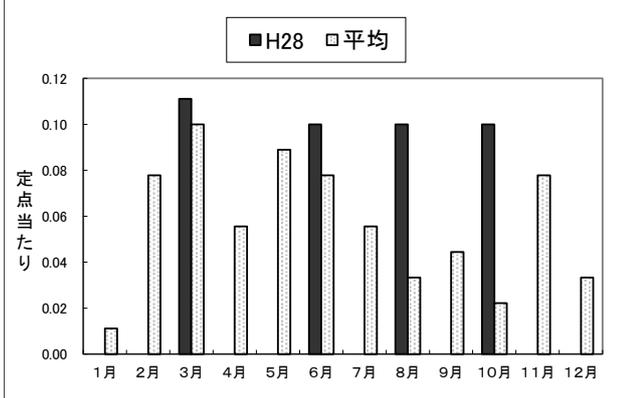


図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

県内定点全体では4例の報告があり、13,24,31,41週に各1例報告された。奈良2例中和西、中和東各1例で全例成人であった。全国順位は23位で定点あたりの報告数は全国平均よりやや少なかった。  
(平井 宏明 記)

## 14.流行性角結膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

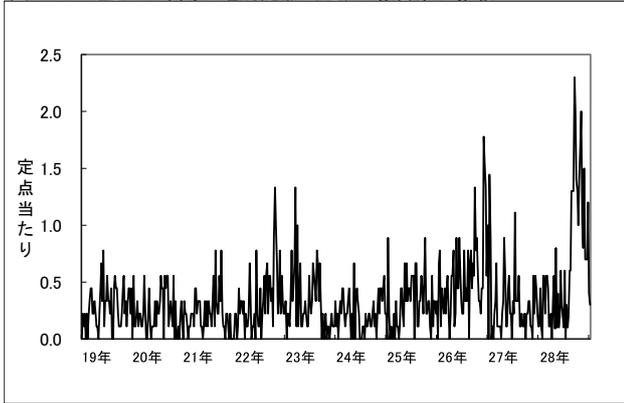


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

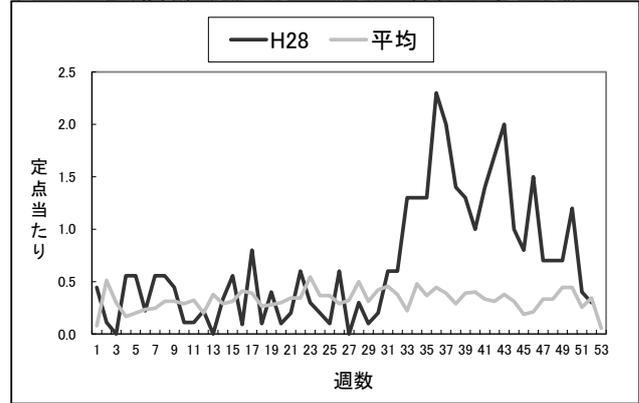


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

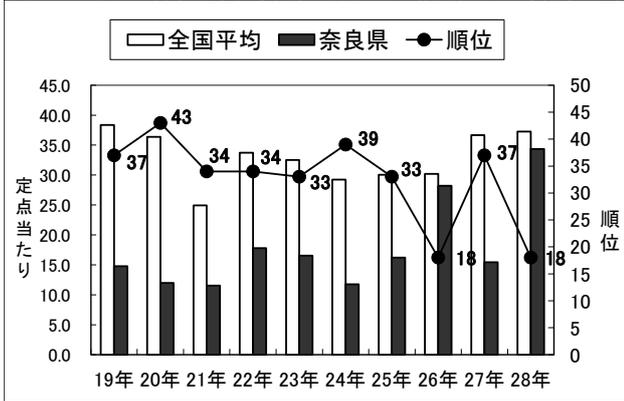


図 14-6 年齢別報告数(実数)

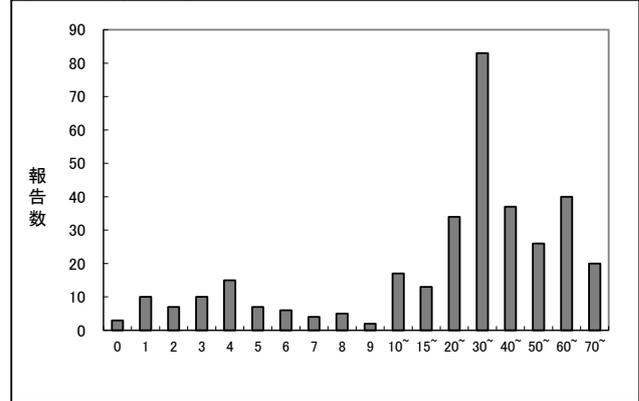


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

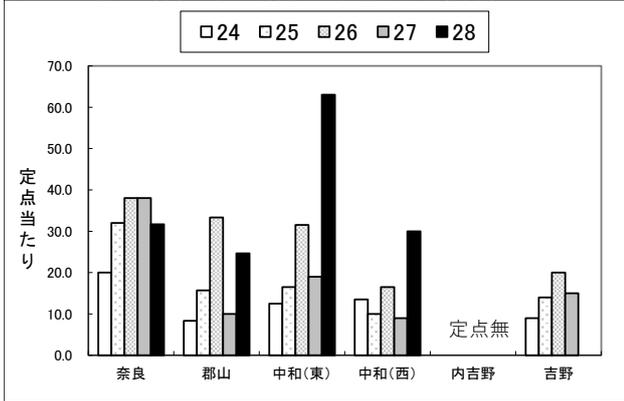
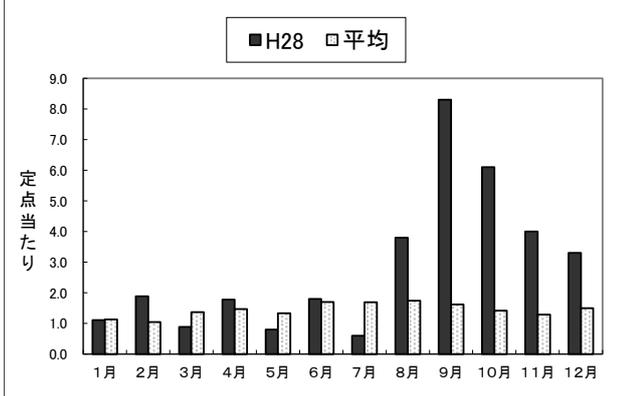


図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

県内定点全体では339例の報告があった。前年の2.4倍と急増し、全国と比較すると、全国平均なみの発生となった。順位も18位と例年の34位前後から上昇した。時期的には33週から50週にかけて多く見られた。定点あたりでは中和東が他の定点の倍と特に多く、奈良、中和西、郡山がその1/2で続いた。年齢的には20歳未満は29%にとどまり、成人の報告が大部分を占めた。30歳代が24%と多く20歳代40歳代がそれぞれ10%を占めた。1から4歳に若年者のピークがあったことから、子供からその両親、家族へと広がった可能性が示唆された。  
(平井 宏明 記)

## 基幹定点分(週報)

## 15.細菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移



図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

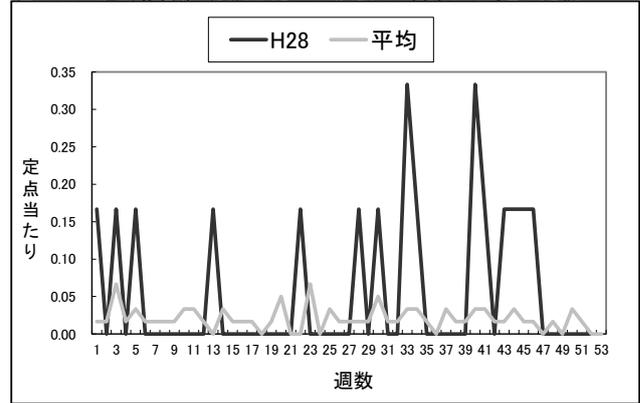


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

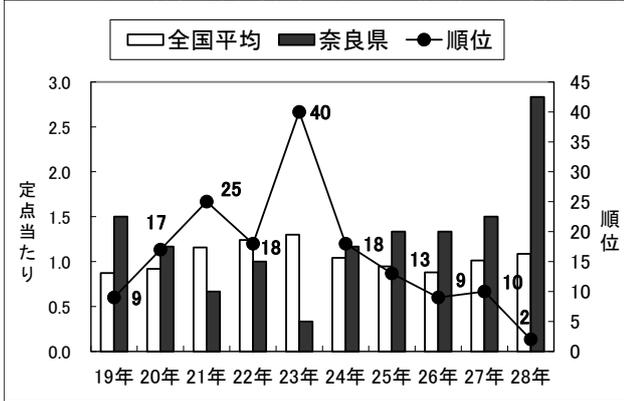


図 15-6 年齢別報告数(実数)

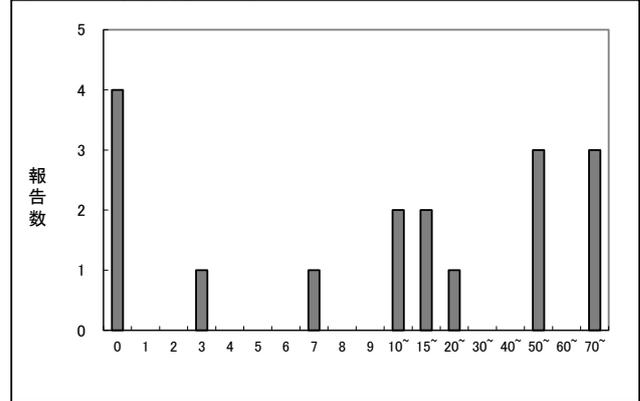


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

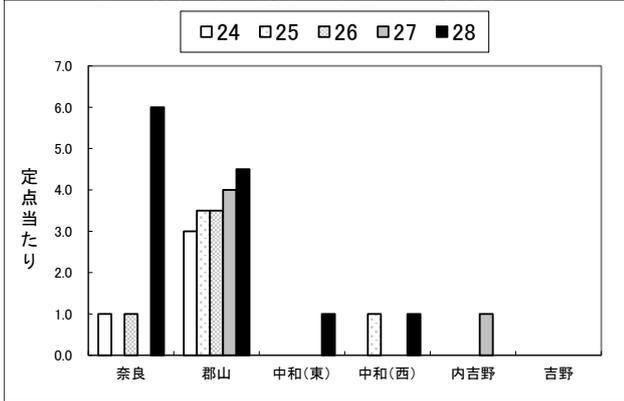
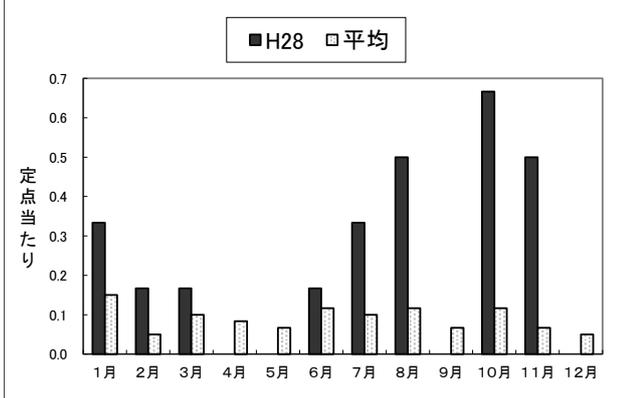


図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年の全報告数は17例で、定点あたりの報告数は2.8であった。奈良県はこれまでも報告数の多い県であったが、28年はこれまでも最も報告数が多く、全国順位も2位となってしまった。季節的な差はみられなかった。かつて本邦における細菌性髄膜炎は5歳未満の報告が多く、全体の約半数を占めていたが、28年の奈良県では5歳未満の報告は30%未満であり、Hibワクチン、肺炎球菌ワクチンの普及によると考えられる一方で、全年齢では総数を減少させる余地が残されていると推察される。

(矢野 寿一 記)

## 16.無菌性髄膜炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

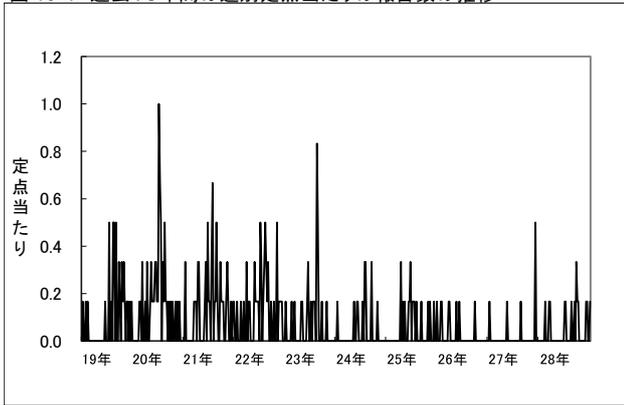


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

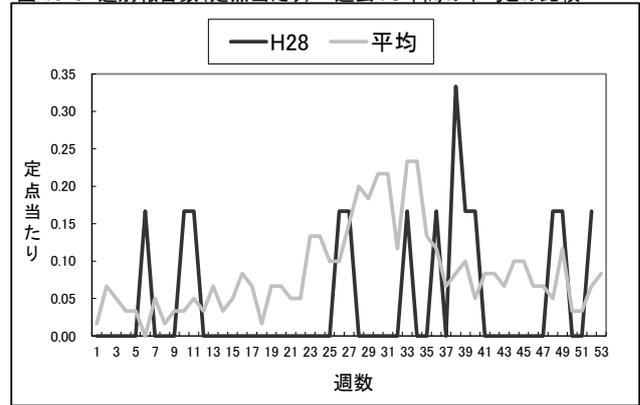


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

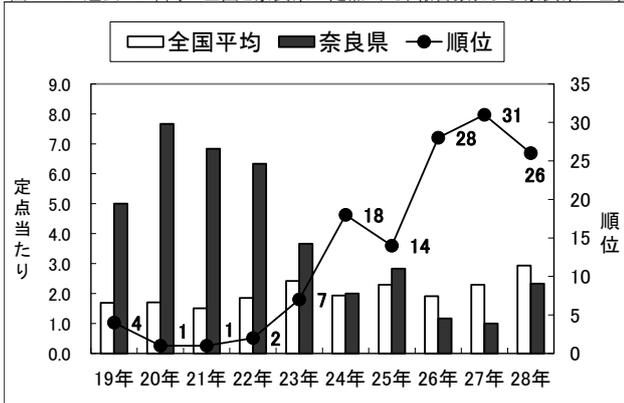


図 16-6 年齢別報告数(実数)

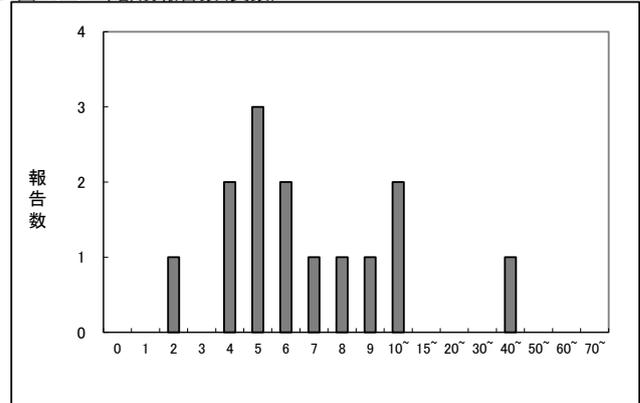


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

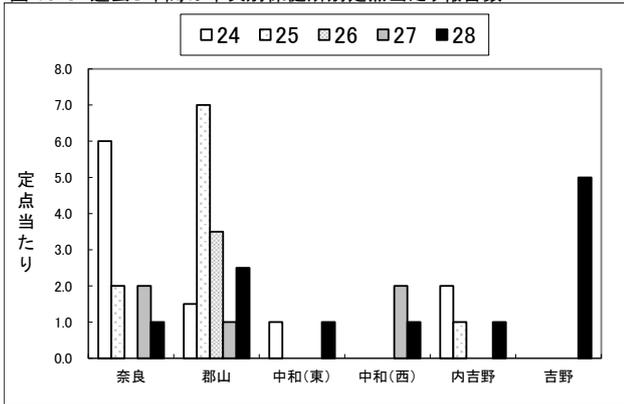
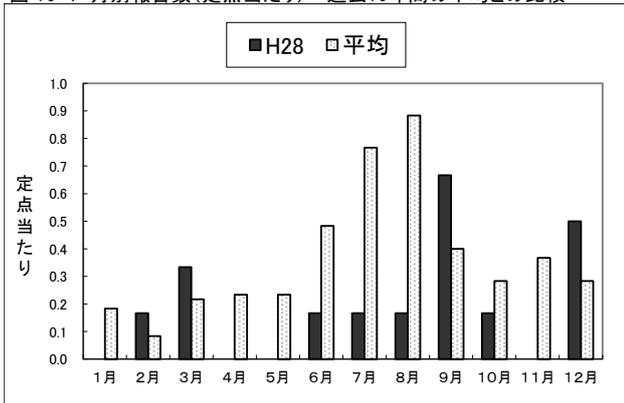


図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年の全報告数は14例、定点あたりの報告数は2.3で、平成23年から27年までは改善傾向にあったが、28年は報告数が増加し、全国順位も若干上がってしまった。年齢層が幼児および学童期が中心であり、夏季に報告数が多いことから、奈良県で夏季に多く分離されたエンテロウイルス属などによる無菌性髄膜炎と推測される。またムンプスウイルスによる無菌髄膜炎も見られているようである。29年は手足口病が流行しており、起病因原体の一つであるエンテロウイルス71やコクサッキーウイルスによる無菌性髄膜炎の増加が懸念される。  
(矢野 寿一 記)

## 17.マイコプラズマ肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

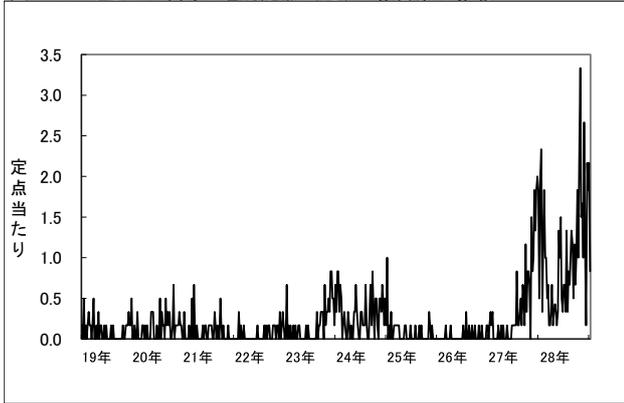


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

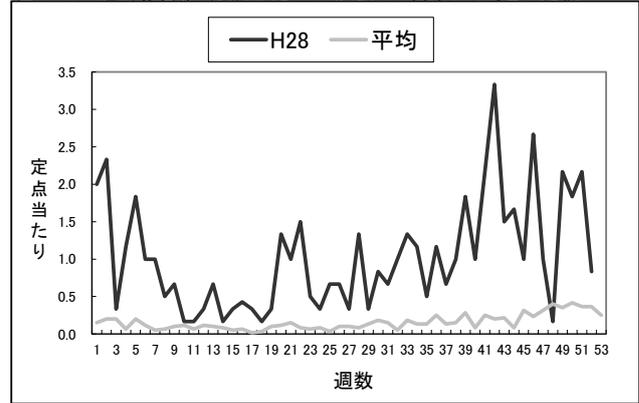


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

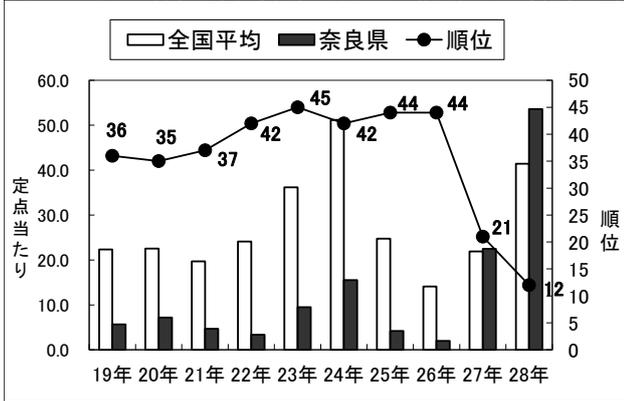


図 17-6 年齢別報告数(実数)

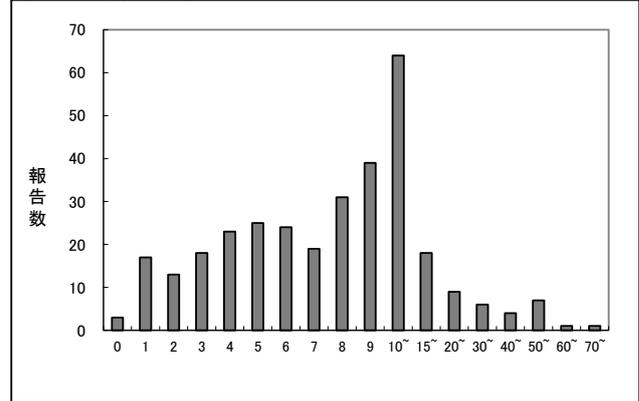


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

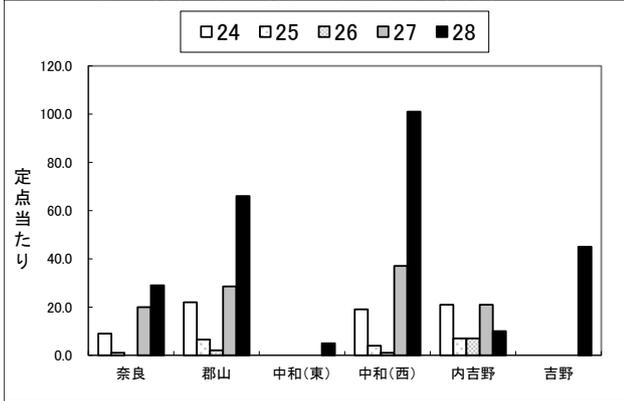
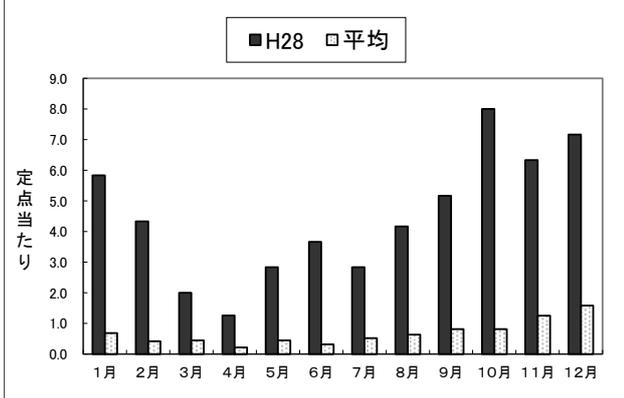


図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年における全報告数は322例、定点あたりの報告数は53.6で、平成27年における全報告数135例、定点あたりの報告数22.5と比較すると大きく増加した。全国順位は26年まで40位台であったが、27年21位、28年12位と大きく上昇している。2016年は全国的にマイコプラズマ肺炎が大流行した年であった。奈良県もその影響を大きく受けているが、全国順位が大きく上昇した理由は明らかではない。

(矢野 寿一 記)

## 18.クラミジア肺炎

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

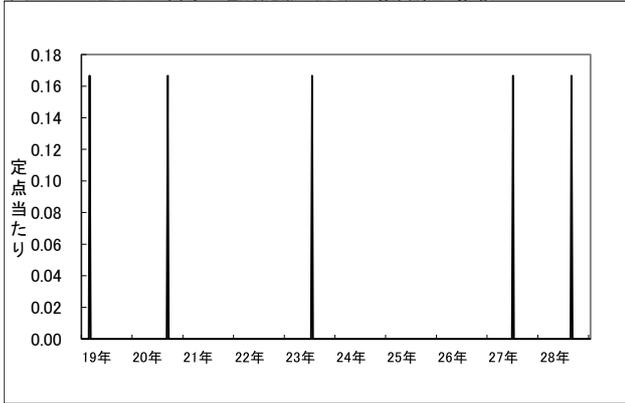


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

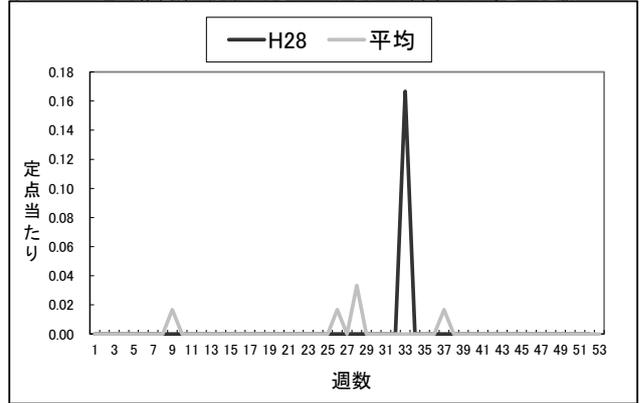


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

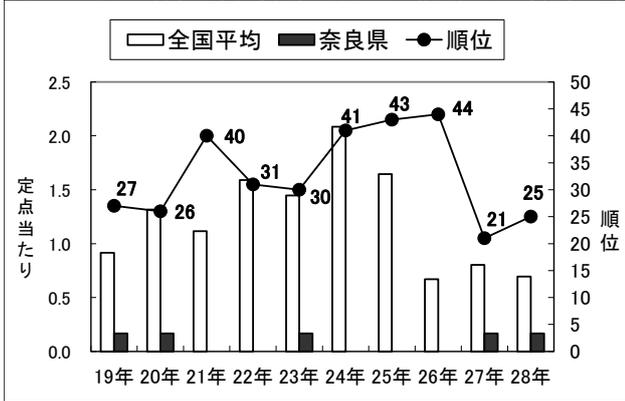


図 18-6 年齢別報告数(実数)

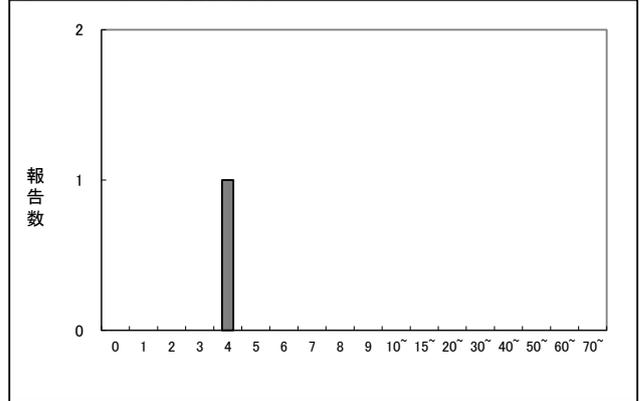


図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

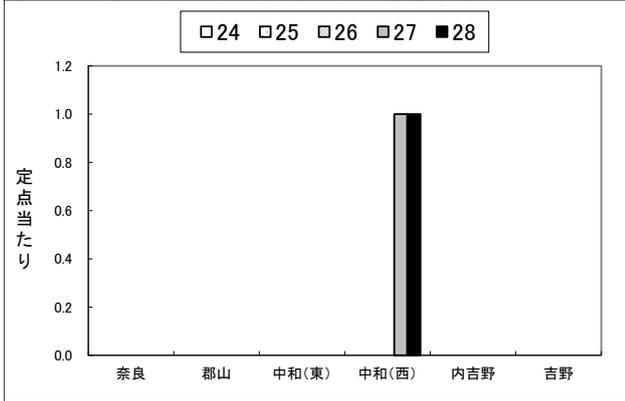
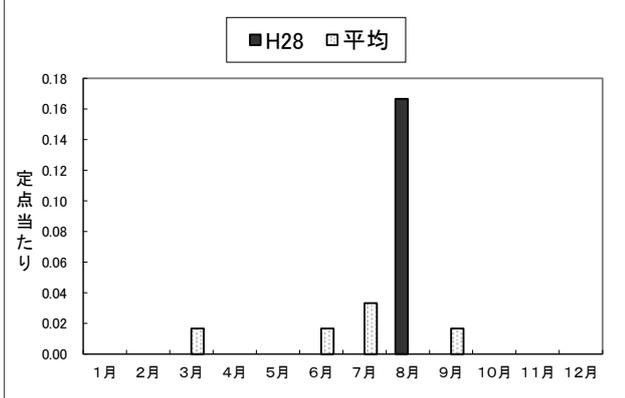


図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成24～26年は クラミジア肺炎の報告はみられなかったが、27年に1例、28年にも1例の報告があった。しかし、低値で推移していることに変わりないようである。

(矢野 寿一 記)

## 19. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 19-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

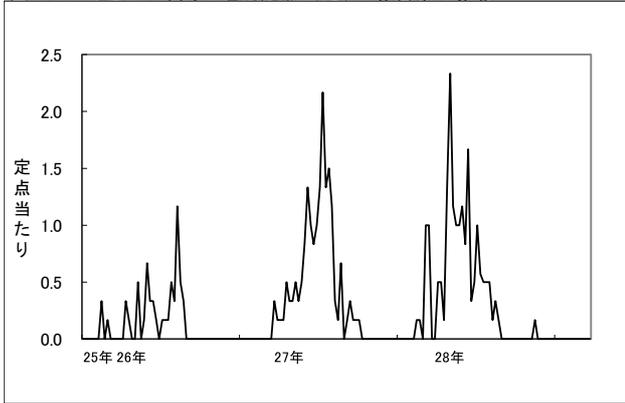


図 19-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

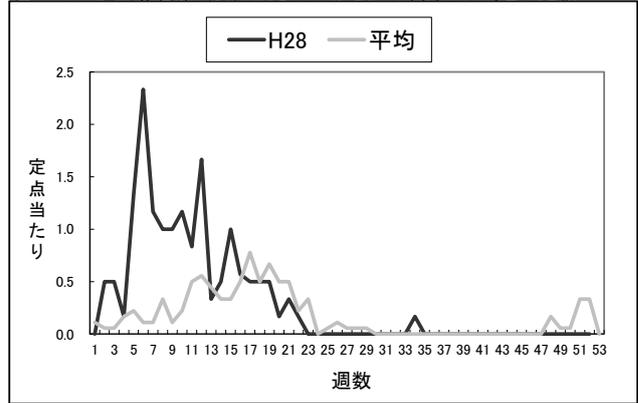


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

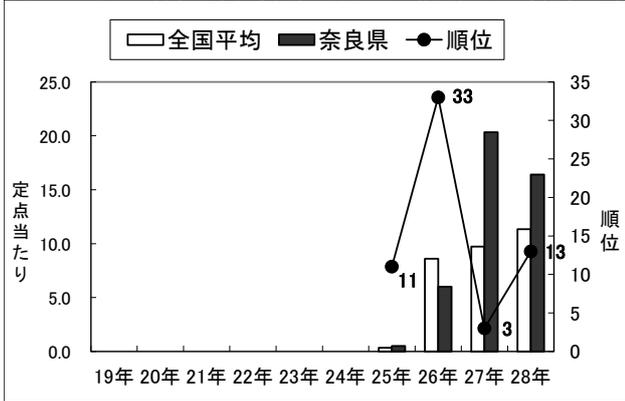


図 19-6 年齢別報告数(実数)

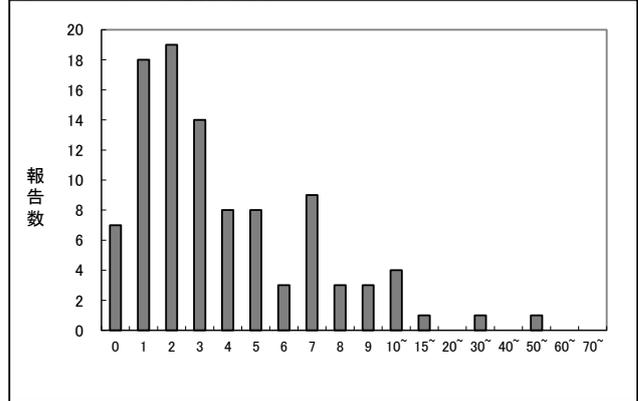


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

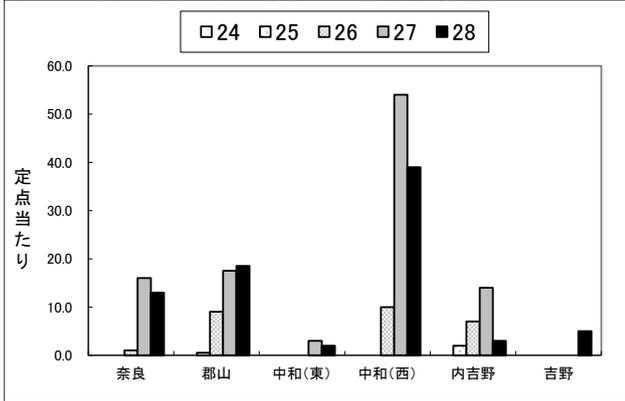
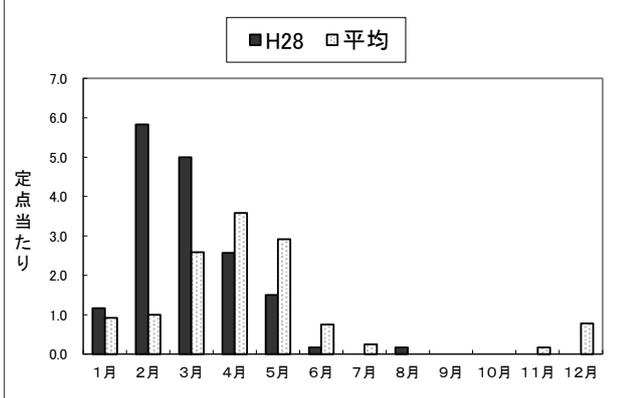


図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### コメント

平成28年における全報告数は99件で、定点あたりの報告数は16.4であった。全国順位は27年は3位であったが、28年は13位と若干の改善傾向にあるが、報告数が多いことには変わらないようである。すでにロタワクチンが接種可能となっているが、本調査のみでは奈良県における接種状況は明らかではないが、接種率のさらなる上昇が望まれる。任意接種ということもあり、行政的な対応も必要であろう。

(矢野 寿一 記)

## 性感染症(STD)定点分

## 20.性器クラミジア感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

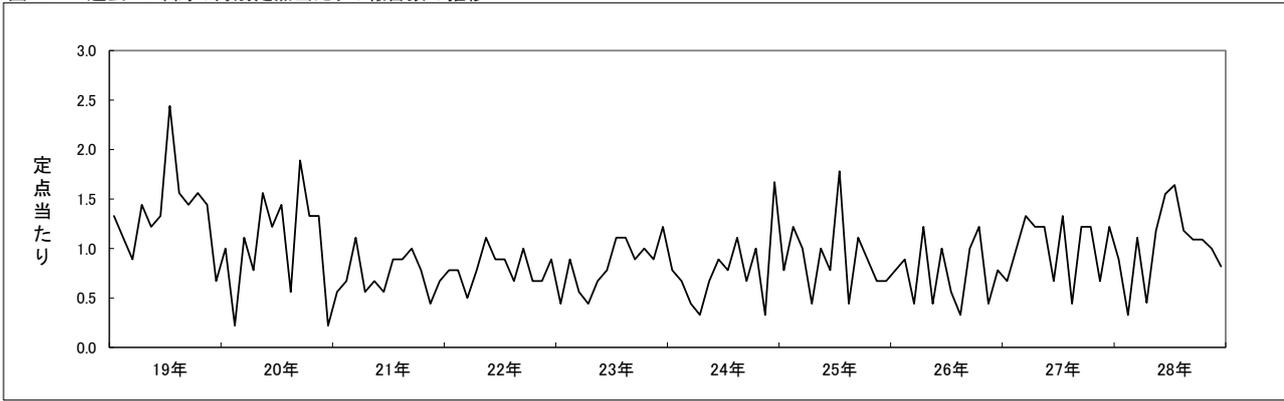


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

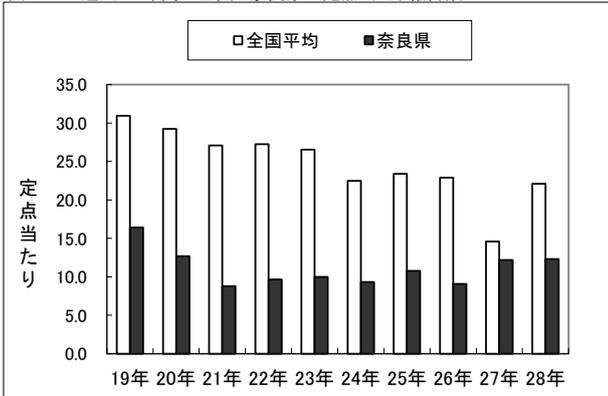


図 20-5 年齢別報告数(実数)

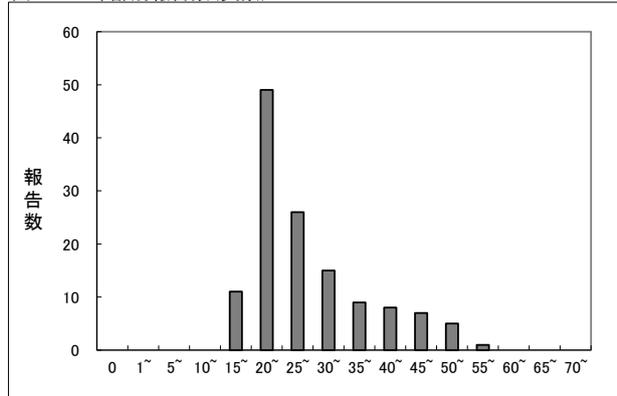
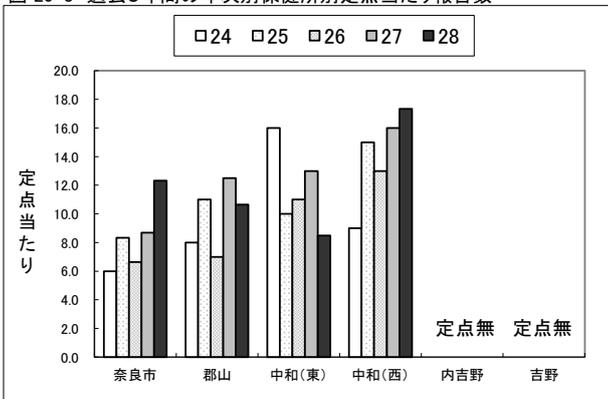


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



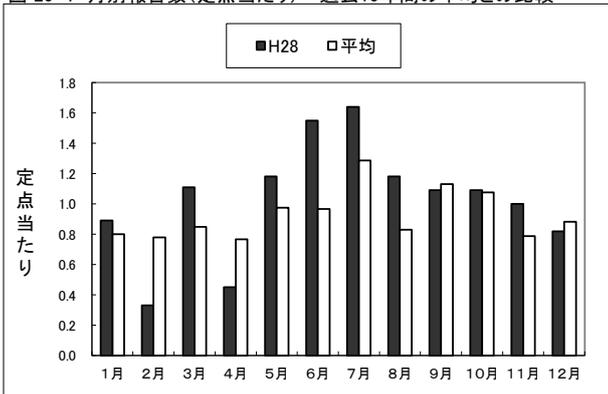
### コメント

淋菌感染症以外の3疾患では総数が増加したが、1定点増加の影響が考えられる。

性器クラミジア感染症は、今回も4疾患の中で報告総数が第1位で、昨年に比較して21例増加した。定点当たり報告数は昨年とほぼ同数であったが、昨年は全国平均が著明に減少したため差がなかったのに対して、今年は全国平均がほぼ例年並みに戻ったため、結果的に低い結果となった。保健所別では、中和(西)と奈良市が増加したのに対して、郡山、中和(東)では減少した。月別では、昨年と異なり春先から夏までの増加が顕著であった。年齢別では、20歳代が最高であったが、例年と同様であった。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 21.性器ヘルペスウイルス感染症

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

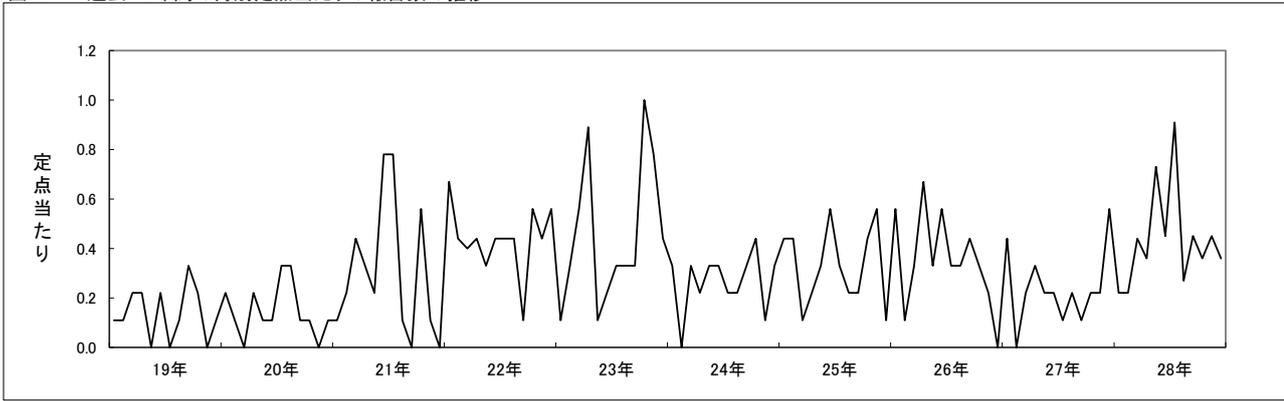


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

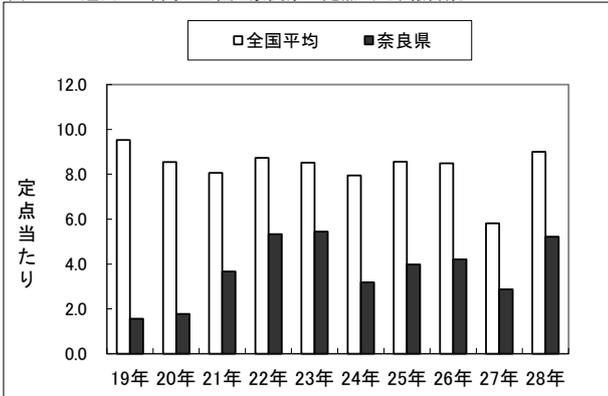


図 21-5 年齢別報告数(実数)

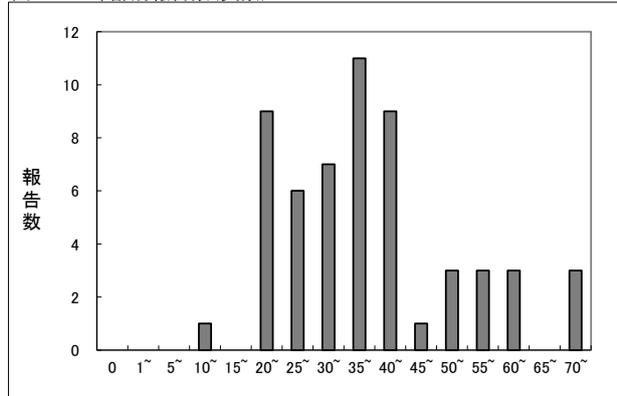
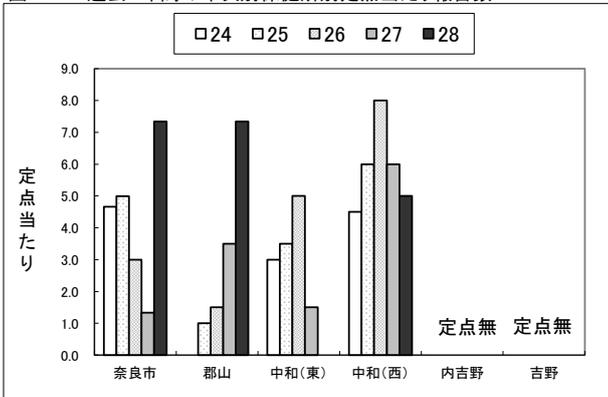


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

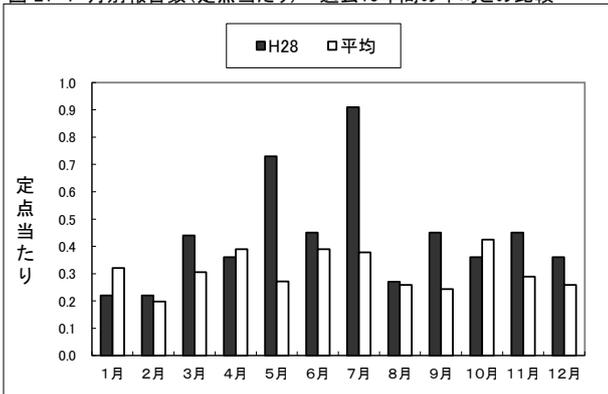


### コメント

報告数では、昨年は4疾患で第4位であったが、今年の実数で30例増加し、尖圭コンジローマと並んで第2位となった。全国平均と比較するとほぼ同じ変動を示している。保健所当たりの報告数は、奈良市と郡山市が著明に増加している。月別では、5月から7月の増加が著明であった。年齢別では、15歳以下で1例の報告があった。今年30歳代の増加が著明であったが、例年70歳代まで幅広く認められるのが本疾患の特徴である。

(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 22.尖圭コンジローマ

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

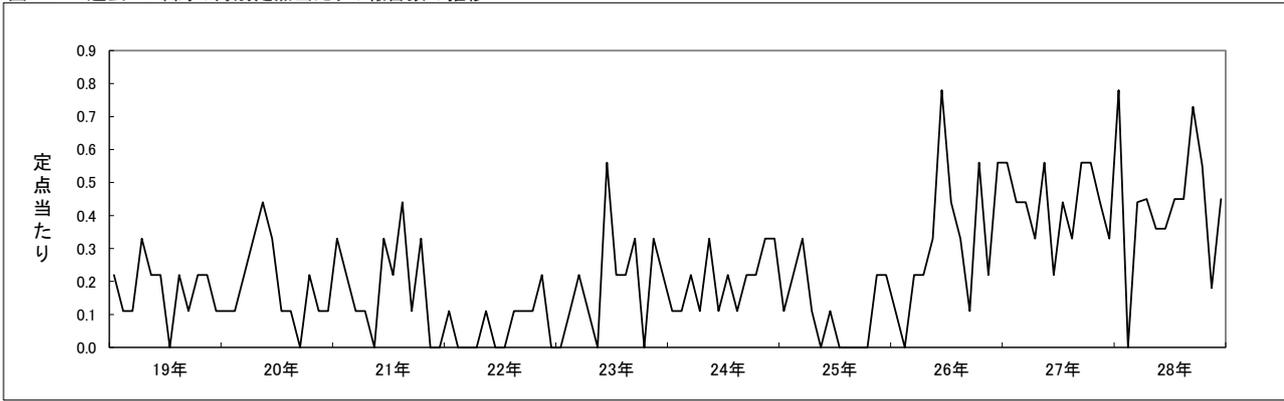


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

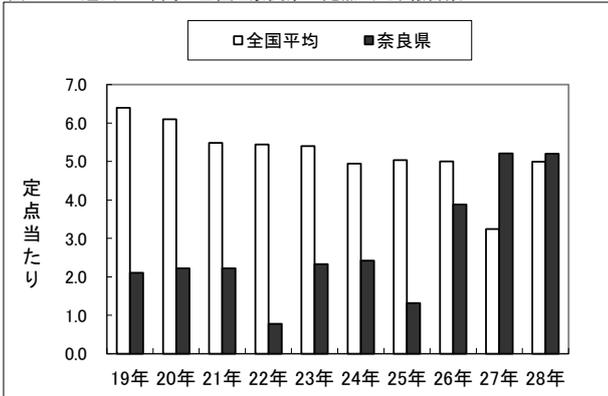


図 22-5 年齢別報告数(実数)

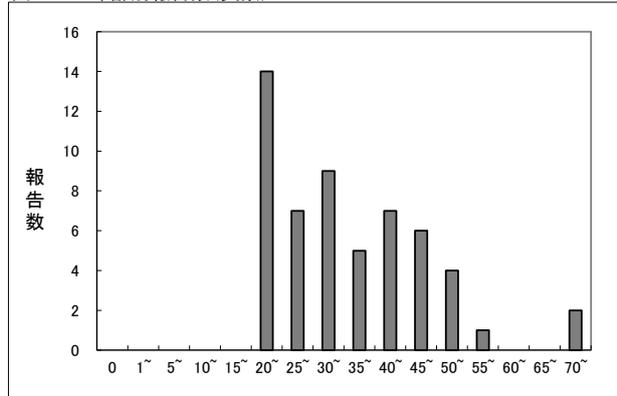
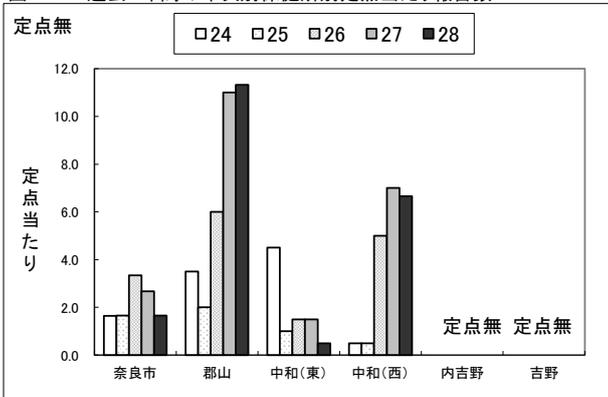


図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

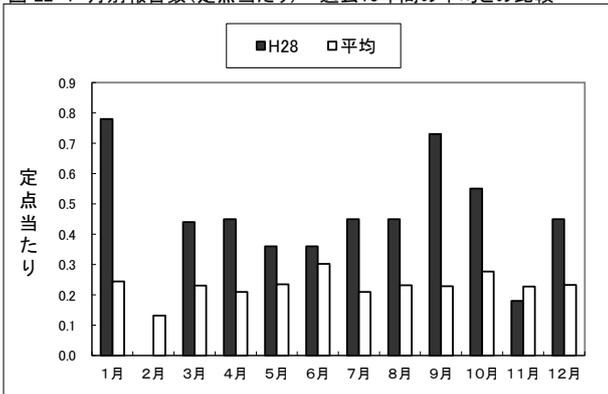


### コメント

総数では昨年より若干の増加が見られた。平成26年から増加が著明であり、昨年から全国平均を上まわっている。保健所別では、例年通り郡山と中和(西)が多い。月別では、特に特徴はないが、各月で平均的に報告されている。年齢別では20歳代が最多であるが、性器ヘルペスウイルス感染症と同様に70歳台まで幅広く観察されている。

(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



### 23.淋菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

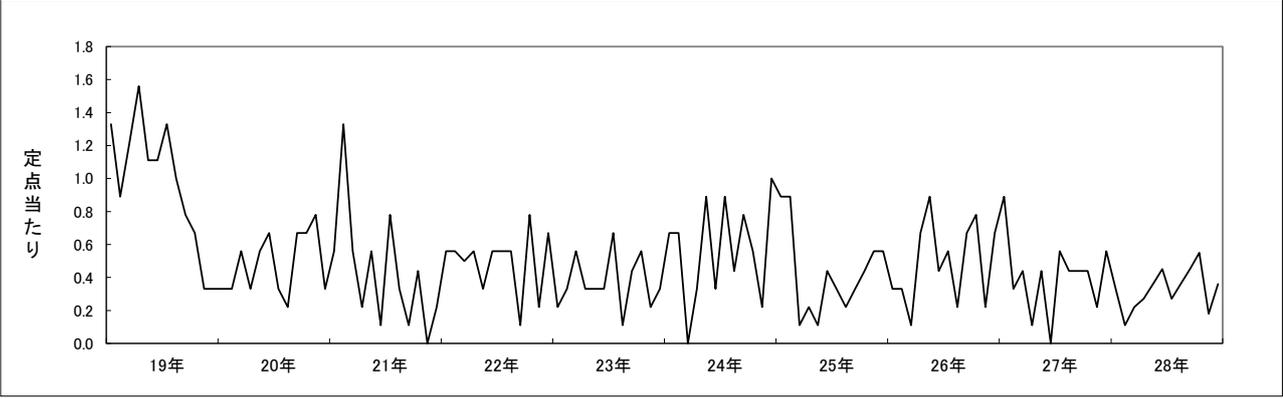


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

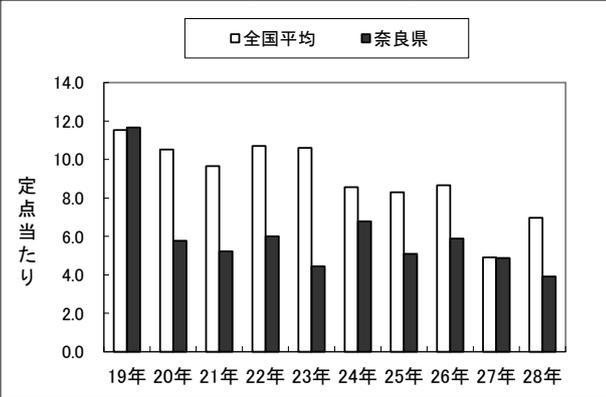


図 23-5 年齢別報告数(実数)

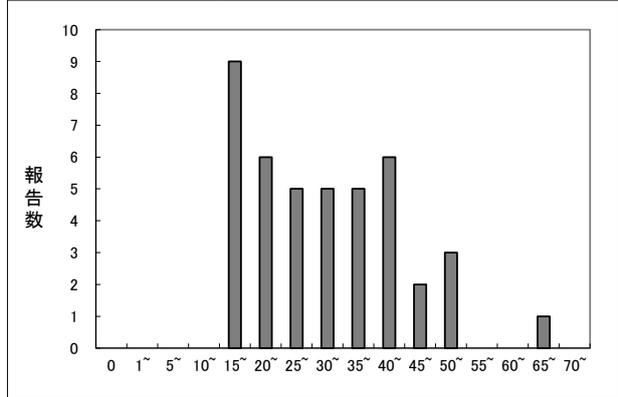
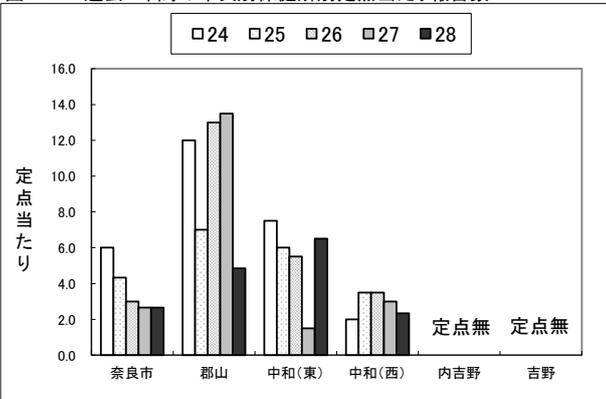


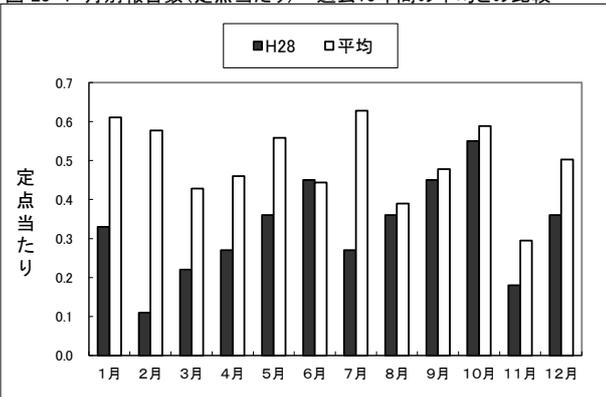
図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



#### コメント

総数ではほぼ昨年と同数であったが、平成19年から減少傾向にある。保険所別では、今年は例年第1位であった郡山で減少が著しく、昨年は最下位であった中和(東)での増加が特筆される。月別では2月、7月、11月と減少し、その後徐々に増加する3峰性が見られた。年齢別では、15歳代が最高で20歳～40歳まで平均的に認められる。  
(三馬 省二 記)

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 基幹定点分(月報)

## 24.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

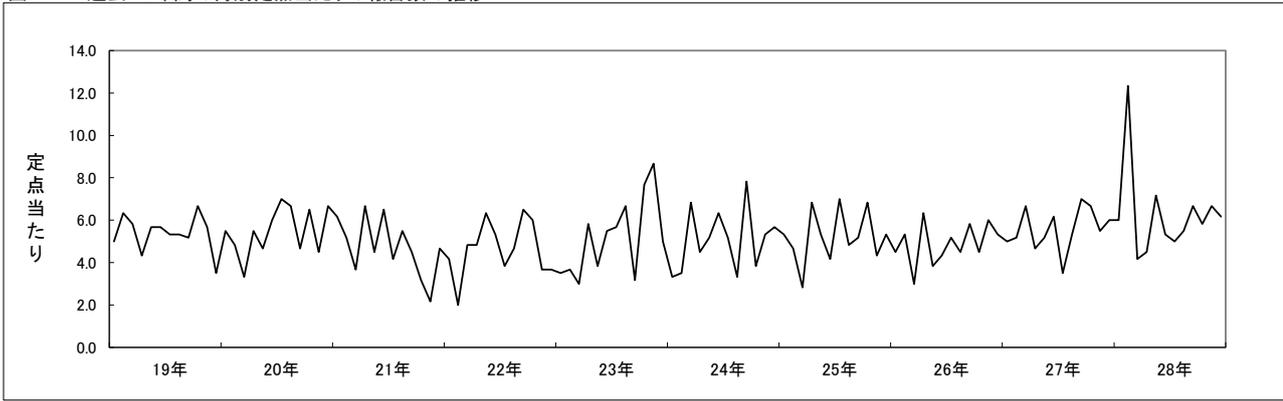


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

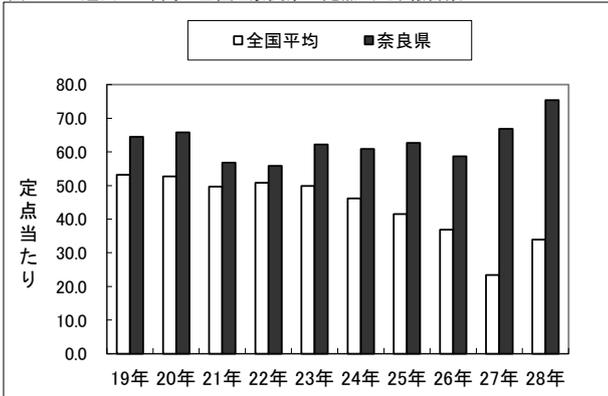


図 24-5 年齢別報告数(実数)

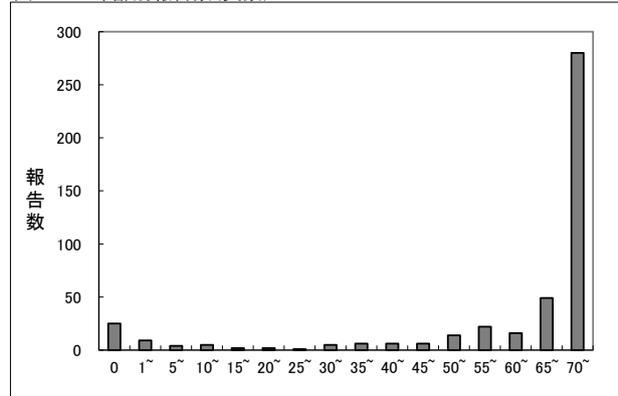
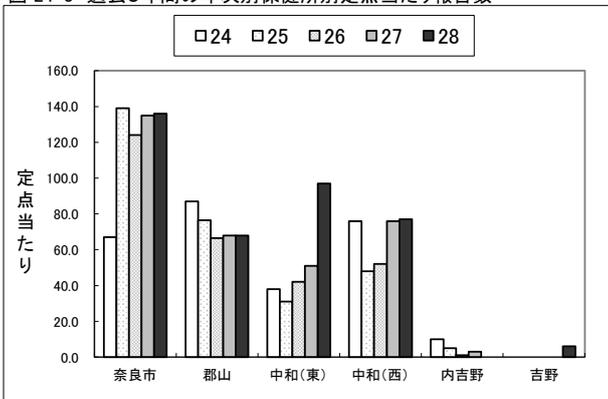


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

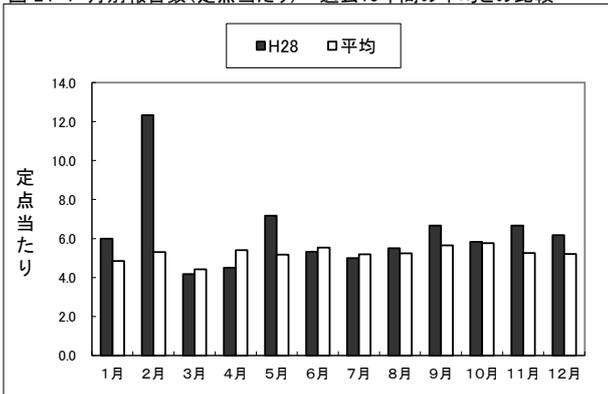


### コメント

平成28年における報告数は452例で、定点あたりの報告数は75.34であり、全国順位も2位であった27年の報告数401例、定点当たりの報告数66.85より増加しており、全国順位も1位となってしまった。全国的にはMRSA感染症の定点当たり報告数は減少傾向にあるものの、奈良県ではいまだ増加傾向がみられる。県内医療機関の医療関連感染対策のさらなる徹底も必要であろう。

(矢野 寿一 記)

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 25.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

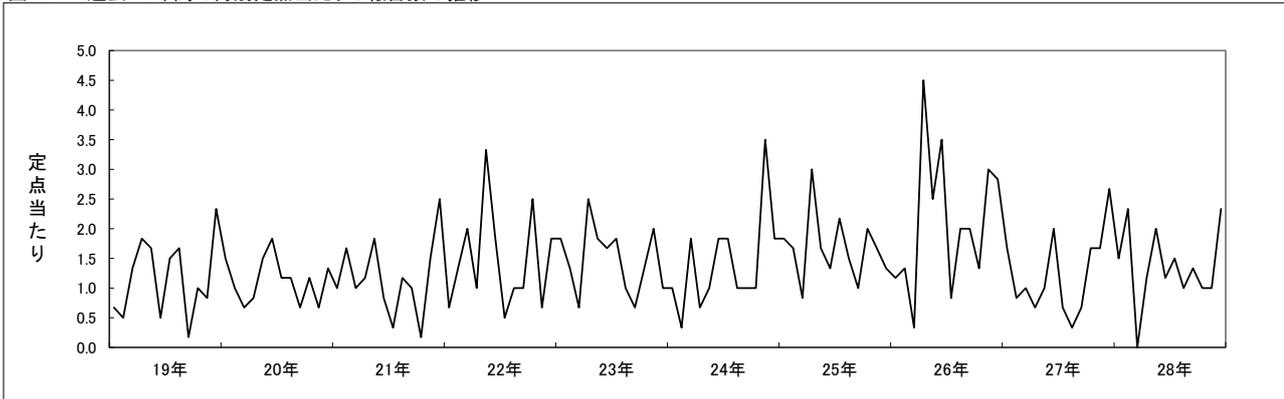


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

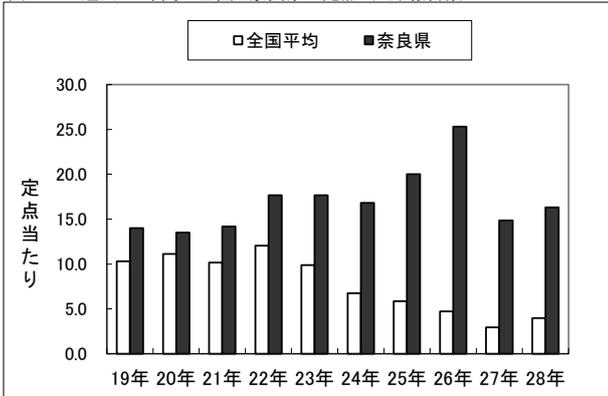


図 25-5 年齢別報告数(実数)

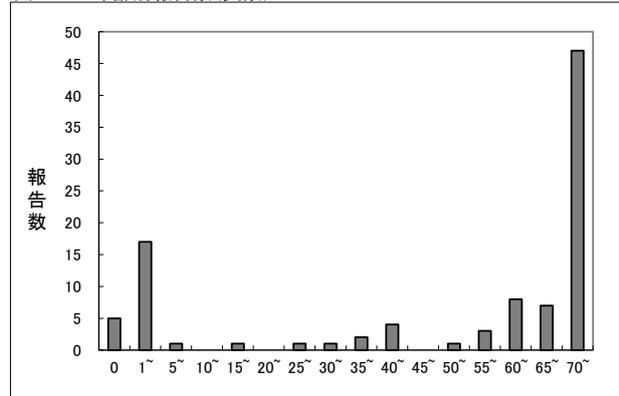
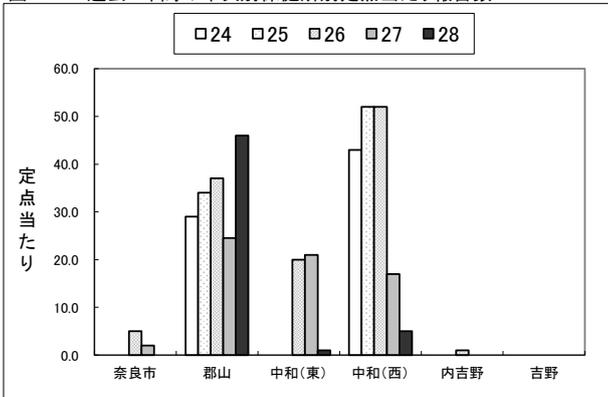


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

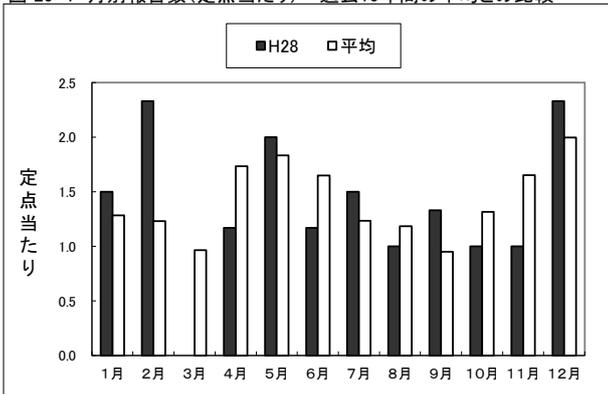


### コメント

平成28年における報告数は98例、定点あたりの報告数は16.33であった。平成27年の報告数89例、定点報告数14.85とほぼ同様の数値で、全国順位も27年、28年ともワースト2位であり、高い報告数を維持している。奈良県におけるワクチン接種率は定かでないが、全国と比べてそれが低いことが示唆され、奈良県においてもワクチン接種率の増加を期待したい。

(矢野 寿一 記)

図 25-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



## 26. 薬剤耐性緑膿菌感染症

図 26-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

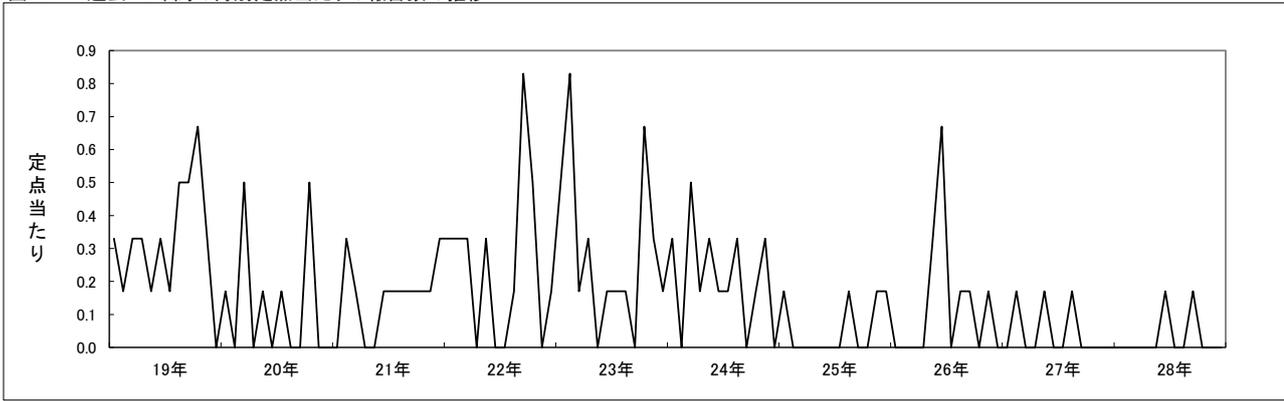


図 26-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

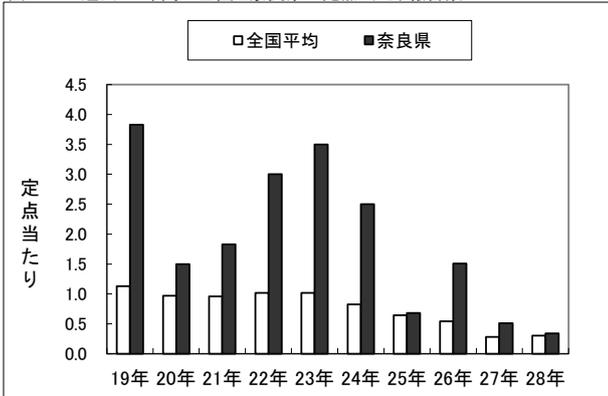


図 26-5 年齢別報告数(実数)

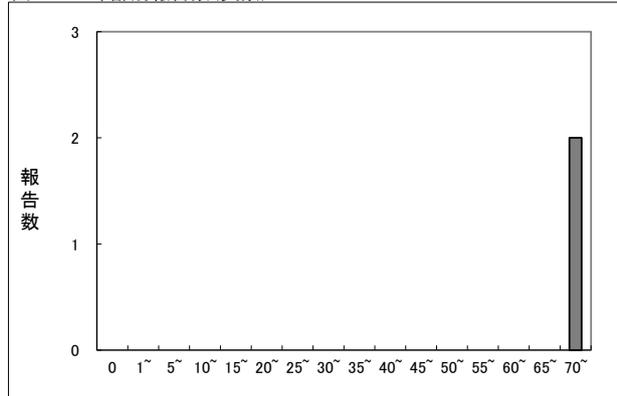
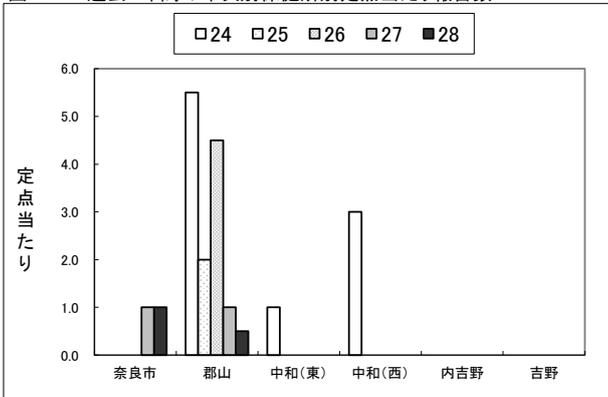


図 26-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



### コメント

平成28年の全報告数は2例で、定点あたりの報告数は0.34であった。例年、高齢者の感染症が多く、28年も2例とも70歳以上で同じ傾向にあった。全国的には17位と報告数の多い県ではあるが、徐々に報告数は減少してきている。特に郡山地区からの報告数が減少傾向にある。今後もこの傾向が維持されることが望まれる。

(矢野 寿一 記)

図 26-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

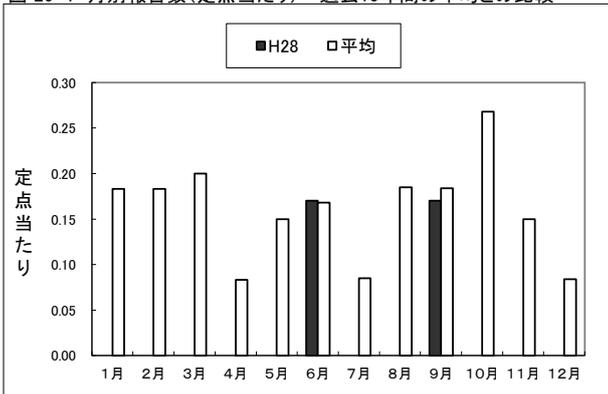


表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	1,275	7,477	5,880	567	59	0	1	0	11	27	223	1,022	16,542
RSウイルス感染症	180	47	32	14	5	7	6	56	207	282	225	264	1,325
咽頭結膜熱	57	62	40	47	96	131	45	45	66	28	52	107	776
A群溶連菌咽頭炎	225	309	306	212	249	381	236	132	132	171	190	290	2,833
感染症胃腸炎	870	850	884	726	691	770	492	401	479	536	2,310	2,644	11,653
水痘	43	37	35	46	47	59	43	19	37	41	47	102	556
手足口病	2	1	0	5	9	22	36	31	56	83	95	70	410
伝染性紅斑	150	81	67	42	66	155	132	59	59	9	17	15	852
突発性発しん	67	50	66	88	78	99	92	76	92	61	65	71	905
百日咳	3	0	0	0	0	4	0	2	1	0	2	2	14
ヘルパンギーナ	2	0	0	4	13	333	493	132	72	21	8	14	1,092
流行性耳下腺炎	87	189	276	183	167	241	228	215	288	189	243	278	2,584
計	1,686	1,626	1,706	1,367	1,421	2,202	1,803	1,168	1,489	1,421	3,254	3,857	23,000
急性出血性結膜炎	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	4
流行性角結膜炎	10	17	8	17	8	18	6	38	83	61	40	33	339
計	10	17	9	17	8	19	6	39	83	62	40	33	343
細菌性髄膜炎	2	1	1	0	0	1	2	3	0	4	3	0	17
無菌性髄膜炎	0	1	2	0	0	1	1	1	4	1	0	3	14
マイコプラズマ肺炎	35	26	12	8	17	22	17	25	31	48	38	43	322
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	35	30	16	9	1	0	1	0	0	0	0	99
計	44	63	45	24	26	25	20	31	35	53	41	46	453
性器クラミジア感染症	8	3	10	5	13	17	18	13	12	12	11	9	131
性器ヘルペスウイルス感染症	2	2	4	4	8	5	10	3	5	4	5	4	56
尖圭コンジローマ	7	0	4	5	4	4	5	5	8	6	2	5	55
淋菌感染症	3	1	2	3	4	5	3	4	5	6	2	4	42
計	20	6	20	17	29	31	36	25	30	28	20	22	284
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	36	74	25	27	43	32	30	33	40	35	40	37	452
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	14	0	7	12	7	9	6	8	6	6	14	98
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
計	45	88	25	34	55	40	39	39	49	41	46	51	552

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	23.61	138.46	108.89	10.50	1.09	0.00	0.02	0.00	0.20	0.50	4.13	18.93	306.33
RSウイルス感染症	5.29	1.38	0.94	0.41	0.15	0.21	0.18	1.65	6.09	8.29	6.62	7.76	38.97
咽頭結膜熱	1.68	1.82	1.18	1.38	2.82	3.85	1.32	1.32	1.94	0.82	1.53	3.15	22.82
A群溶連菌咽頭炎	6.62	9.09	9.00	6.24	7.32	11.21	6.94	3.88	3.88	5.03	5.59	8.53	83.32
感染症胃腸炎	25.59	25.00	26.00	21.35	20.32	22.65	14.47	11.79	14.09	15.76	67.94	77.76	342.74
水痘	1.26	1.09	1.03	1.35	1.38	1.74	1.26	0.56	1.09	1.21	1.38	3.00	16.35
手足口病	0.06	0.03	0.00	0.15	0.26	0.65	1.06	0.91	1.65	2.44	2.79	2.06	12.06
伝染性紅斑	4.41	2.38	1.97	1.24	1.94	4.56	3.88	1.74	1.74	0.26	0.50	0.44	25.06
突発性発しん	1.97	1.47	1.94	2.59	2.29	2.91	2.71	2.24	2.71	1.79	1.91	2.09	26.62
百日咳	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00	0.06	0.03	0.00	0.06	0.06	0.41
ヘルパンギーナ	0.06	0.00	0.00	0.12	0.38	9.79	14.50	3.88	2.12	0.62	0.24	0.41	32.12
流行性耳下腺炎	2.56	5.56	8.12	5.38	4.91	7.09	6.71	6.32	8.47	5.56	7.15	8.18	76.00
計	49.59	47.82	50.18	40.21	41.79	64.76	53.03	34.35	43.79	41.79	95.71	113.44	676.47
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.11	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00	0.00	0.41
流行性角結膜炎	1.11	1.89	0.89	1.78	0.80	1.80	0.60	3.80	8.30	6.10	4.00	3.30	34.37
計	1.11	1.89	1.00	1.78	0.80	1.90	0.60	3.90	8.30	6.20	4.00	3.30	34.78
細菌性髄膜炎	0.33	0.17	0.17	0.00	0.00	0.17	0.33	0.50	0.00	0.67	0.50	0.00	2.83
無菌性髄膜炎	0.00	0.17	0.33	0.00	0.00	0.17	0.17	0.17	0.67	0.17	0.00	0.50	2.33
マイコプラズマ肺炎	5.83	4.33	2.00	1.26	2.83	3.67	2.83	4.17	5.17	8.00	6.33	7.17	53.60
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1.17	5.83	5.00	2.57	1.50	0.17	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	16.40
計	7.33	10.50	7.50	3.83	4.33	4.17	3.33	5.17	5.83	8.83	6.83	7.67	75.33
性器クラミジア感染症	0.89	0.33	1.11	0.45	1.18	1.55	1.64	1.18	1.09	1.09	1.00	0.82	12.33
性器ヘルペスウイルス感染症	0.22	0.22	0.44	0.36	0.73	0.45	0.91	0.27	0.45	0.36	0.45	0.36	5.25
尖圭コンジローマ	0.78	0.00	0.44	0.45	0.36	0.36	0.45	0.45	0.73	0.55	0.18	0.45	5.22
淋菌感染症	0.33	0.11	0.22	0.27	0.36	0.45	0.27	0.36	0.45	0.55	0.18	0.36	3.94
計	2.22	0.67	2.22	1.55	2.64	2.82	3.27	2.27	2.73	2.55	1.82	2.00	26.75
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6.00	12.33	4.17	4.50	7.17	5.33	5.00	5.50	6.67	5.83	6.67	6.17	75.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1.50	2.33	0.00	1.17	2.00	1.17	1.50	1.00	1.33	1.00	1.00	2.33	16.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.33
計	7.50	14.67	4.17	5.67	9.17	6.67	6.50	6.50	8.17	6.83	7.67	8.50	92.00

表2-1 疾患別・年齢別報告数

年齢	0-6M	7-12M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	
インフルエンザ	39	183	487	641	702	963	1,234	1,289	1,285	1,083	1,007	2,727	735	592	840	1,095	716	497	283	144	16,542	
RSウイルス感染症	150	290	445	248	117	52	13	5	2	1	1	0	0	1							1,325	
咽頭結膜熱	4	78	215	126	95	84	71	26	25	11	8	22	1	10							776	
A群溶連菌咽頭炎	8	31	201	221	316	364	371	347	269	212	162	247	18	66							2,833	
感染症胃腸炎	86	499	1,547	1,324	1,199	1,267	1,096	845	652	482	385	800	230	1,241							11,653	
水痘	10	13	39	32	35	55	82	71	75	47	35	49	4	9							556	
手足口病	1	35	167	74	33	40	16	20	9	3	2	6	0	4							410	
伝染性紅斑	0	9	34	76	95	152	149	112	73	62	37	32	2	19							852	
突発性発しん	10	329	454	85	16	6	3	2	0	0	0	0	0	0							905	
百日咳	1	2	2	1	0	0	0	0	2	0	1	2	0	3							14	
ヘルパンギーナ	7	81	298	248	173	111	87	33	16	13	12	9	3	1							1,092	
流行性耳下腺炎	0	9	79	162	230	361	402	332	277	245	179	233	24	51							2,584	
計	277	1,376	3,481	2,597	2,309	2,492	2,290	1,793	1,400	1,076	822	1,400	282	1,405	0	0	0	0	0	0	23,000	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	4	
流行性角結膜炎	0	3	10	7	10	15	7	6	4	5	2	17	13	34	83	37	26	40	20		339	
計	0	3	10	7	10	15	7	6	4	5	2	17	13	35	83	38	28	40	20	0	343	
年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-	合計					
細菌性髄膜炎	4	1	1	2	2	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	17					
無菌性髄膜炎	0	3	8	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	14					
マイコプラズマ肺炎	3	71	138	64	18	6	3	2	4	2	2	5	2	1	0	1	322					
クラミジア肺炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	7	59	26	4	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	99					
計	14	135	173	72	21	7	3	3	4	2	3	8	3	1	0	4	453					
性器クラミジア感染症	0	0	0	0	11	49	26	15	9	8	7	5	1	0	0	0	131					
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	1	0	9	6	7	11	9	1	3	3	0	0	3	56					
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	0	14	7	9	5	7	6	4	1	0	0	2	55					
淋菌感染症	0	0	0	0	9	6	5	5	5	6	2	3	0	0	1	0	42					
計	0	0	0	1	20	78	44	36	30	30	16	15	5	3	1	5	284					
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	25	9	4	5	2	2	1	5	6	6	6	14	22	16	49	280	452					
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	17	1	0	1	0	1	1	2	4	0	1	3	8	7	47	98					
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2					
計	30	26	5	5	3	2	2	6	8	10	6	15	25	24	56	329	552					

年齢別報告数(実数:10歳以上は1歳平均)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
インフルエンザ	222.0	487.0	641.0	702.0	963.0	1,234.0	1,289.0	1,285.0	1,083.0	1,007.0	545.4	147.0	59.2	84.0	109.5	71.6	49.7	28.3	14.4
RSウイルス感染症	44.0	445.0	248.0	117.0	52.0	13.0	5.0	2.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	82.0	215.0	126.0	95.0	84.0	71.0	26.0	25.0	11.0	8.0	4.4	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A群溶連菌咽頭炎	39.0	201.0	221.0	316.0	364.0	371.0	347.0	269.0	212.0	162.0	49.4	3.6	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
感染症胃腸炎	585.0	1,547.0	1,324.0	1,199.0	1,267.0	1,096.0	845.0	652.0	482.0	385.0	160.0	46.0	17.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水痘	23.0	39.0	32.0	35.0	55.0	82.0	71.0	75.0	47.0	35.0	9.8	0.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手足口病	36.0	167.0	74.0	33.0	40.0	16.0	20.0	9.0	3.0	2.0	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伝染性紅斑	9.0	34.0	76.0	95.0	152.0	149.0	112.0	73.0	62.0	37.0	6.4	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
突発性発しん	339.0	454.0	85.0	16.0	6.0	3.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
百日咳	3.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	88.0	298.0	248.0	173.0	111.0	87.0	33.0	16.0	13.0	12.0	1.8	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	9.0	79.0	162.0	230.0	361.0	402.0	332.0	277.0	245.0	179.0	46.6	4.8	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1,653.0	3,481.0	2,597.0	2,309.0	2,492.0	2,290.0	1,793.0	1,400.0	1,076.0	822.0	280.0	56.4	20.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳~	15歳~	20歳~	30歳~	40歳~	50歳~	60歳~	70歳~	80歳~
急性出血性結膜炎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0
流行性角結膜炎	0.0	10.0	7.0	10.0	15.0	7.0	6.0	4.0	5.0	2.0	3.4	2.6	3.4	8.3	3.7	2.6	4.0	2.0	0.0
計	0.0	10.0	7.0	10.0	15.0	7.0	6.0	4.0	5.0	2.0	3.4	2.6	3.5	8.3	3.8	2.8	4.0	2.0	0.0

表2-2 疾患別・世代別報告数

疾患別・世代別 1歳平均 換算表

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期	高齢期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20~59歳	60歳~
インフルエンザ	222.0	805.4	821.2	147.0	81.1	30.8
RSウイルス感染症	44.0	175.0	1.0	0.0	0.0	
咽頭結膜熱	82.0	118.2	10.2	0.2	0.1	
A群溶連菌咽頭炎	39.0	294.6	137.4	3.6	0.9	
感染症胃腸炎	585.0	1,286.6	351.6	46.0	17.7	
水痘	23.0	48.6	30.8	0.8	0.1	
手足口病	36.0	66.0	4.4	0.0	0.1	
伝染性紅斑	9.0	101.2	35.1	0.4	0.3	
突発性発しん	339.0	112.8	0.2	0.0	0.0	
百日咳	3.0	0.6	0.6	0.0	0.0	
ヘルパンギーナ	88.0	183.4	9.2	0.6	0.0	
流行性耳下腺炎	9.0	246.8	140.7	4.8	0.7	
計	1,653.0	2,633.8	721.2	56.4	20.1	

小児科定点の疾患別・世代別割合

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	26.6%	6.6%	0.1%	0.0%	0.1%
咽頭結膜熱	5.0%	4.5%	1.4%	0.4%	0.7%
A群溶連菌咽頭炎	2.4%	11.2%	19.1%	6.4%	4.7%
感染症胃腸炎	35.4%	48.8%	48.7%	81.6%	88.3%
水痘	1.4%	1.8%	4.3%	1.4%	0.6%
手足口病	2.2%	2.5%	0.6%	0.0%	0.3%
伝染性紅斑	0.5%	3.8%	4.9%	0.7%	1.4%
突発性発しん	20.5%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%
百日咳	0.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.2%
ヘルパンギーナ	5.3%	7.0%	1.3%	1.1%	0.1%
流行性耳下腺炎	0.5%	9.4%	19.5%	8.5%	3.6%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表3 疾患別・保健所別報告数

## 報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	3,212	4,439	3,106	4,579	516	690	7,651	7,685	1,206	16,542
RSウイルス感染症	182	204	358	541	1	39	386	899	40	1,325
咽頭結膜熱	145	259	152	202	0	18	404	354	18	776
A群溶連菌咽頭炎	437	541	224	1,491	10	130	978	1,715	140	2,833
感染症胃腸炎	2,348	2,743	2,472	3,619	184	287	5,091	6,091	471	11,653
水痘	176	151	87	121	1	20	327	208	21	556
手足口病	113	89	56	141	1	10	202	197	11	410
伝染性紅斑	381	274	130	56	5	6	655	186	11	852
突発性発しん	276	181	229	201	3	15	457	430	18	905
百日咳	13	0	1	0	0	0	13	1	0	14
ヘルパンギーナ	218	256	230	315	14	59	474	545	73	1,092
流行性耳下腺炎	622	748	644	402	35	133	1,370	1,046	168	2,584
計	4,911	5,446	4,583	7,089	254	717	10,357	11,672	971	23,000
急性出血性結膜炎	2	0	1	1	0	0	2	2	0	4
流行性角結膜炎	79	74	126	60	0	0	153	186	0	339
計	81	74	127	61	0	0	155	188	0	343
細菌性髄膜炎	6	9	1	1	0	0	15	2	0	17
無菌性髄膜炎	1	5	1	1	1	5	6	2	6	14
マイコプラズマ肺炎	29	132	5	101	10	45	161	106	55	322
クラミジア肺炎	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	13	37	2	39	3	5	50	41	8	99
計	49	183	9	143	14	55	232	152	69	453
性器クラミジア感染症	37	29	17	48	0	0	66	65	0	131
性器ヘルペスウイルス感染症	22	21	0	13	0	0	43	13	0	56
尖圭コンジローマ	5	29	1	20	0	0	34	21	0	55
淋菌感染症	8	14	13	7	0	0	22	20	0	42
計	72	93	31	88	0	0	165	119	0	284
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	136	136	97	77	0	6	272	174	6	452
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	92	1	5	0	0	92	6	0	98
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	0	0	0	0	2	0	0	2
計	137	229	98	82	0	6	366	180	6	552

## 定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	285.28	280.11	282.36	419.05	258.00	230.00	282.52	350.82	241.20	306.33
RSウイルス感染症	21.43	22.04	51.14	88.29	1.00	19.50	21.75	68.26	13.33	38.97
咽頭結膜熱	16.87	28.04	21.71	32.36	0.00	9.00	22.74	26.79	6.00	22.82
A群溶連菌咽頭炎	52.84	57.48	32.00	238.38	10.00	65.00	55.55	129.03	46.67	83.32
感染症胃腸炎	276.79	295.81	353.14	578.50	184.00	143.50	287.11	459.88	157.00	342.74
水痘	20.83	16.27	12.43	19.38	1.00	10.00	18.45	15.74	7.00	16.35
手足口病	12.59	9.89	8.00	23.45	1.00	5.00	11.23	15.14	3.67	12.06
伝染性紅斑	46.75	29.34	18.57	8.64	5.00	3.00	37.17	13.87	3.67	25.06
突発性発しん	32.83	19.50	32.71	32.50	3.00	7.50	25.79	32.54	6.00	26.62
百日咳	1.54	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.73	0.08	0.00	0.41
ヘルパンギーナ	24.25	28.42	32.86	52.48	14.00	29.50	26.34	41.91	24.33	32.12
流行性耳下腺炎	73.68	79.79	92.00	65.40	35.00	66.50	77.56	79.44	56.00	76.00
計	580.40	586.59	654.71	1,139.38	254.00	358.50	584.41	882.69	323.67	676.47
急性出血性結膜炎	0.67	0.00	0.50	0.50	0.00	0.00	0.33	0.50	0.00	0.41
流行性角結膜炎	31.67	24.67	63.00	30.00	0.00	0.00	26.50	46.50	0.00	34.37
計	32.33	24.67	63.50	30.50	0.00	0.00	26.83	47.00	0.00	34.78
細菌性髄膜炎	6.00	4.50	1.00	1.00	0.00	0.00	5.00	1.00	0.00	2.83
無菌性髄膜炎	1.00	2.50	1.00	1.00	1.00	5.00	2.00	1.00	6.00	2.33
マイコプラズマ肺炎	29.00	66.00	5.00	101.00	10.00	45.00	53.67	53.00	55.00	53.60
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	13.00	18.50	2.00	39.00	3.00	5.00	16.67	20.50	8.00	16.40
計	49.00	91.50	9.00	143.00	14.00	55.00	77.33	76.00	69.00	75.33
性器クラミジア感染症	12.33	10.67	8.50	17.33	0.00	0.00	11.33	13.55	0.00	12.33
性器ヘルペスウイルス感染症	7.33	7.33	0.00	5.00	0.00	0.00	7.30	2.80	0.00	5.25
尖圭コンジローマ	1.67	11.33	0.50	6.67	0.00	0.00	6.00	4.25	0.00	5.22
淋菌感染症	2.67	4.83	6.50	2.33	0.00	0.00	3.77	4.15	0.00	3.94
計	24.00	34.17	15.50	31.33	0.00	0.00	28.40	24.75	0.00	26.75
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	136.00	68.00	97.00	77.00	0.00	6.00	90.67	87.00	6.00	75.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	46.00	1.00	5.00	0.00	0.00	30.67	3.00	0.00	16.33
薬剤耐性緑膿菌感染症	1.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.33
計	137.00	114.50	98.00	82.00	0.00	6.00	122.00	90.00	6.00	92.00